

2010年度

中高年の就労生活意識調査

アンケート調査報告書

社団法人 徳島県労働者福祉協議会

巻 頭 言

社団法人徳島県労働者福祉協議会

会 長 久 積 育 郎

「あと12年余りで定年退職となりますが、定年後、年金をいただくまでの収入や社会保障制度など自分の生活がどうなるか想像が付きません。(40歳代男性)」 「本音は悠々自適な生活がしたいのですが、人生は長いので経済的に困らないように退職後も何らかの収入がほしい。やりたい趣味もあるのだが…。(50歳代女性)」 「若い頃は、人生は希望と辛抱だと頑張っていたが、今は人生は我慢と現状維持だと耐えることを考える。(60歳代男性)」……これらは本調査での代表的な自由意見であります。

6年ぶりとなる今回の調査から見てくるシニア像の特徴は、第一に、全体の約9割の人が定年後の暮らしについて、生活費などの経済面、年金などの将来見通し、自分と家族の健康などに大きな不安を感じています。

第二に、約半数の人が生活費や健康のために元気なうちは働きたいと考えており、一方、定年後は働きたくないとの回答は平成16年度調査と比較して31.5%から22.0%へと大幅に減少しています。そして、再就職支援策として、働く場所、相談窓口、資格取得のため講座などの充実を強く求めています。

第三に、NPO・ボランティア・社会貢献活動について、これらの関心が61.8%(平成16年度)から78.4%へと大きく増加し、参加している人も21.9%(平成16年度)から29.2%へと着実に増えています。

高齢化社会が進み団塊世代の社会移動が始まる中で、私ども労福協は、元気シニアの健康に暮らしたい、生きがいを持ちたい、仕事がしたい、仲間がほしいなどの多様なニーズに応える元気シニアネットワーク連携事業として、健康づくり、生きがいサポート、仕事サポート、交流広場づくりなどの取り組みを始めました。

『無縁社会』であって良いはずはありません。今回の調査が、多くの関係諸団体にとっていきいきと輝くシニア社会づくりへ向けての基礎資料として、積極的に活用いただくことを強く期待いたします。

最後になりましたが、調査結果の講評をいただいた徳島文理大学の中村昌宏教授、そしてアンケートの回答にご協力いただいた方々、配布集約にご尽力いただいた関係機関、関係各位に厚くお礼申しあげます。

目 次

調査の概要	5
--------------------	----------

- ） 調査目的
- ） 調査対象
- ） 調査方法
- ） 調査期間
- ） 調査の実施
- ） 回収結果
- ） 調査結果の見方

アンケートの講評 （徳島文理大学総合政策学部 学部長 中村 昌宏）.....	9
---	----------

調査結果	17
-------------------	-----------

- ） あなた自身のことについて ----- 17
- ） お仕事について ----- 25
- ） 定年後の過ごし方について ----- 35
- ） あなたの趣味やボランティア活動等について ----- 45
- ） 今後の勤労者へのライフサポートとして ----- 50
- ） 自由意見欄 ----- 55

標本誤差について,多変量解析の結果 ----- 54

アンケート調査票	61
-----------------------	-----------

調査の概要

■ 調査の概要

．調査目的

勤労意欲を持ちながら、職に就いていない中高年求職者、退職を間近に控えた高年齢労働者の就労や生活意識の実情調査を行ない、今後の中高齢者の労働・生活政策に資する。

．調査対象

徳島県内に居住する40歳以上の男女 3,000名

．調査方法

郵送または訪問配布（後日回収）による自記式アンケート調査

．調査期間

平成22年5月10日 ～ 平成22年6月30日まで

．調査の実施

本調査は、社団法人徳島県労働者福祉協議会が企画、実施、集計・分析および報告書の作成を行った。

．回収結果

回収枚数 2,423枚 回収率 80.8%

．調査結果の見方

- 集計表・グラフでは、回答率（各回答の百分比）は小数点以下第2位を四捨五入したため、回答率の合計が100.0%にならないことがある。
なお、便宜上グラフ及び数値を省略している場合がある。
- 基礎となるべき実数（回答者数）をnとして掲載した。すべての比率はnを100%として算出している。
- 複数回答の設問については、比率算出の回答者数（票数）とし、その項目を選び○をつけた人が全体（n）から見て何%なのかという見分けとする。そのため各項目の比率を合計しても100.0%とならないことがある。なお、表中の合計は単純合計を示している。
- その他の意見、自由記入欄の意見は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。

アンケートの講評

アンケートの講評

徳島文理大学 総合政策学部
学部長 中 村 昌 宏

このたび、「中高年の就労生活意識調査」の結果がまとめられた。それを拝見させていただいたので、率直な感想を述べてみたい。

まず、本アンケート調査の特徴についていくつか挙げておく。1つは調査対象人数の多さと回収率の高さである。この種の調査では回収率が3割あれば上出来である。しかるに本調査にあっては何と調査対象者3千人のうち2,423人もの回答があり、回収率は80.8%という驚異的な高さである。このことは本調査の内容が回答者にとって極めて身近で、切実で、かつ重要であると認識されたからであると考えられる。もう1つは6年前の平成16年に「シニア人生（中高年～高齢期）多様な働き方と生きがい」というテーマで今回と同じような内容の調査を実施しており、それとの対比による分析ができることである。

それでは調査結果に基づき、逐次コメントを加えてみたい。

（１）回答者の属性について

性別では、男性が63.8%、女性が34.5%となっており、ほぼ男性が2/3、女性が1/3である。（無回答、あるいは無効の回答があるので合計が100%にならない）

年齢別では60歳未満が全体の82.3%を占めており、現役世代の比率が高いのが特徴である。男女とも年齢構成はほぼ似ており、女性は40～44歳がやや多く、男性は55～59歳がやや多くなっている。

家族構成では男性の場合、配偶者との同居が多いのに対して、女性は子供との同居の割合が多いのが特徴といえる。

（２）問4の「暮らし向き」について

「以前よりゆとりが出てきた」と答えた人は全体の僅か5.4%に止まっており、92.9%もの人が「ゆとりがない」あるいは「変わらない」と回答している。

男性で「ゆとりが出てきた」と答えたのが4.5%、これに対して女性は7.2%と高いのは共働き世帯（それも正社員）の多さに起因しているのだろうか。

年代別では50歳～69歳の層において、ゆとり度が高くなっている。これは現役では管理職、退職後は年金と給料のダブルインカムの世帯が押し上げていると推察される。

職種別にみても、「以前よりゆとりが出てきた」と回答した割合が多いのは、販売従事者 管理的職業従事者 農林漁業従事者 生産工程・労務従事者 専門的・技術的職業従事者の順であった。これに対して、「ゆとりがない」と答えたのは、多い順に

保安職業従事者 運輸・通信従事者 事務従事者 サービス職業従事者となっている。職種別による光と陰が浮かび上がっている。

(3) 問5の「生活の不安や悩み」について

「健康」が53.2%で最も多く、「金銭的問題」が48.2%、「家族の問題」が31.4%、「子供の教育」が27.9%と続いている。因みに健康、経済、家族の3Kが自殺の3大要因ともなっており、公助、共助、自助による実効ある対策が求められる。

(4) 問6の「必要とされる生活費の額」について

「16～20万円」が22.4%と男女ともに最も多く、「21～25万円」、「26～30万円」がこれに続いている。但し、2番目が男性は「21～25万円」であるのに対し、女性は「26～30万円」となっており、女性の方が高額なのが注目される。

(5) 問7の「現在、仕事に従事しているかどうか」について

男性では88.4%、女性は82.5%の人が仕事に従事している。但し、65～74歳では54%に低下し、75歳以上では47.6%となっている。75歳以上の人のうち約半分の人が何らかの仕事に従事しているということは注目に値する。

(6) 問8の「従事している職種」について

男性は 事務 専門的・技術的職業 生産工程・労務 運輸・通信 管理的職業の順となっており、これに対して女性は 事務 専門的・技術的職業 サービス 生産工程・労務の順である。男性は生産、運輸、管理業務に、女性はサービス業務に多く従事しているという特徴がみられる。

(7) 問9の「就業形態」について

正社員が78.1%、契約社員が7.4%、パート社員が3.9%、派遣社員が0.7%となっている。男性で正社員の比率が高く、女性で契約社員とパート社員の比率が男性との比較で高くなっている。なお、60歳を過ぎると正社員の割合は急減している。

(8) 問10の「仕事をしていない人の理由」について

求職活動中 仕事は探していない 求職活動を行ったが仕事が見つからず活動をやめた 育児や家族の介護で働けない 病気で働けない、の順となっている。

と を理由として挙げた人が28.1%もあり、これらの人々に求職活動に向かわせる方策が求められる。

(9) 問11の「求職活動を行う中での困ったこと」について

中高年の働く場所がない 年齢制限・性別 求職先の情報が少ない 求職活動はしていない 公的資格の有無 自分の能力価値がわからない スキルアップを行う機会の不足 困ったことはない 自己アピール法が分からない 学歴、の順となっている。 と の多さから見ても中高年者の就労の場の狭さが読み取れる。

(10) 問12の「再就職に向けた各種支援セミナーの開催や公的職業訓練を知っているか」について

「知っており参加したことがある」が7.9%、「知っているが参加したことがない」が

58.8%、これに対して「知らない」が30.1%となっている。60歳を過ぎると「知っている」人の割合が急増している。

「知らない人」への周知、広報と「知っているが参加したことがない人」への参加の機づけを積極的に行っていくことが望まれる。

(11) 問13の「身につけたい職業訓練資格」について

事務・パソコン関係 医療・福祉関係 土木・建設関係の順となっている。年齢が若い人ほど資格への関心が高く、とりわけ事務・パソコン関係への希望が多かった。

(12) 問14の「求められる中高年齢者の再就職支援策」について

中高年齢者の就業場所の充実 就職相談窓口の充実 資格取得のための職業訓練の充実や講習・セミナー等の開催 生活全般の支援 スキルアップや職探しのカウンセリングの場を設ける 就職活動中の託児や介護の支援の充実、の順となっている。ここでも中高年齢者を取り巻く雇用環境の厳しさが垣間見える。

(13) 問15「定年後の過ごし方」について

元気なうちは働きたい 悠々自適な生活をしたい 趣味やスポーツに関する活動をしたい ボランティアやNPOの活動をしたい 事業を起こしたい、の順となっている。

女性の方が「元気なうちは働きたい」の比率が男性を上回っているのは注目される。これに対し、「趣味やスポーツに関する活動をしたい」や「悠々自適な生活をしたい」は男性の方が高くなっている。

「悠々自適な生活をしたい」と回答した人の割合を職種別にみると、事務従事者 管理的職業従事者 運輸・通信従事者の順となっており、問4での「暮らしのゆとり」との関連はみられない。つまり、ゆとりがないからこそ、願望として「悠々自適な生活がしたい」との回答になっていると考えられる。

(14) 問16「定年退職後の暮らしの不安」について

「不安がある」と回答した人は51.7%、「少しある」が37.4%、「あまりない」は6.6%、「ない」は2.3%となっている。全体の約9割の人が定年後の暮らしに不安を感じていることが分かった。

「不安がある」と回答した人を職種別にみると、多い順に 運輸・通信従事者 事務従事者 保安職業従事者となっている。これは、問4の結果ともほぼ一致する。

逆に不安を感じる人の割合が少ないのは 管理的職業従事者 農林漁業従事者であり土地を所有している農業をはじめ第1次産業従事者が所得環境の厳しさにも関わらず、不安が少ないと答えているのが注目される。

平成16年の調査結果と比較すると、「不安がない」人が17.9%から8.9%と大幅に減少しており、暮らしの不安は高まってきていることが分かる。

(15) 問17「不安の内容」について

定年後の生活費 年金など将来の見通し 自分の健康 家族の介護 配偶者

の健康 定年後の仕事の確保、の順となっている。男女共にこの順位は同じである。

(16) 問 18 「勤務先の定年年齢」について

60歳 63～64歳 65歳以上 61～62歳の順となっている。60歳と回答している人の割合は75.3%となっている。60歳定年の見直しは未だしの感がしないでもないが、平成16年の調査では60歳と答えた人の割合が93.9%であったことから考察すると、まずまずの進捗度と言えよう。

職種別にみても、60歳定年の割合が高いのは、事務従事者 生産工程・労務従事者 専門的・技術的職業従事者である。これに対して、65歳以上と回答している人の割合が多いのは 保安職業従事者 農林漁業従事者 管理的職業従事者とサービス職業従事者が同じ比率、となっている。

(17) 問 19 「定年後の雇用延長についての希望する働き方」について

再雇用制度 雇用延長制度 定年の引き上げ、の順となっている。

(18) 問 20 「定年後の就労」について

65歳ぐらいまで 定年後は働きたくない 可能な限り働きたい 70歳ぐらいまで、の順になっている。

女性が「可能な限り働きたい」と「定年後は働きたくない」で男性を上回っており、女性の間での二極化が浮かび上がっている。

平成16年の調査と比較してみると、前回は「定年後は働きたくない」が26.3%であったのが、今回は22.0%に減少しているのが注目される。これを経済的な余裕の無さと見るのか、現役でありたいという前向きに捉えるのか迷うところである。

(19) 問 21 「定年後の就労を希望する理由」について

生活費のため 健康維持のため もっと自分の小遣いがほしい 仕事を通していろんな人と出会いたい ローン返済 専門能力をいかしたい、の順となっている。

女性の方が「仕事を通していろんな人と出会いたい」と答えた人の比率が高く、他の理由については男性の方が高くなっている点が注目される。

(20) 問 22 「定年後に仕事を選ぶときに重視すること」について

時間を選べる仕事 現役時代にやってきた仕事 やり甲斐のある仕事 簡単にできる仕事 趣味や専門能力をいかせる仕事 資格・特技がいかせる仕事 収入の多い仕事 退職前とは無関係な仕事、の順となっている。

「時間を選べる仕事」、「簡単にできる仕事」については女性の方が高い比率を示している。

(21) 問 23 「定年後の労働時間の希望」について

フルタイムで少ない日数 短時間で毎日 フルタイムで毎日 短時間で少ない日数の順となっている。男性は と 、女性は と で高い比率を示しており、特に女性は短時間を希望していることが窺われる。

平成16年の調査では「短時間で毎日」が最多であったが、今回の調査では「フルタイ

ムで少ない日数」と入れ替わっている。まる１日、自由に時間が使えるメリットを享受したいのか、あるいは労働の負担感が少なくて済むためなのだろうか。

(2 2) 問 2 4 「シルバー人材センターの周知」について

「知っている」が 7 3 . 6 %、「ある程度知っている」が 9 . 3 %、「あまり知らない」が 8 . 4 %、「知らない」が 6 . 1 %となっており、8 3 %の人がシルバー人材センターのことを「知っている」もしくは「ある程度知っている」ことが分かった。

(2 3) 問 2 5 「シルバー人材センターの活用」について

「活用している」が 3 2 . 9 %、「時々活用している」が 1 1 . 1 %、「登録のみ」が 3 . 5 %、「活用するつもりがない」が 2 1 . 7 %となっている。6 0 歳以上で仕事をしたい人にとってシルバー人材センターの活用状況は高いと評価できるが、「活用するつもりがない」が 2 1 . 7 %、「その他・無回答・無効」が 3 0 . 8 %と多い点が気掛かりではある。

(2 4) 問 2 6 「NPO・ボランティア・社会貢献活動への参加」について

「参加している」が 1 5 . 4 %、「過去に参加した経験がある」が 1 3 . 8 %、「参加していない」が 6 8 . 7 %となっている。過去の参加経験を含めて参加した人の割合は約 3 割しかいないことが分かった。男性の方が女性よりも僅かではあるが参加率が高くなっている。

平成 1 6 年の調査では「参加している」が 1 0 . 7 %、「過去に参加した経験がある」が 1 1 . 2 %だったことを思えば、「参加」あるいは「参加経験のある人」は着実に増加してきていることが分かる。

(2 5) 問 2 7 「前問での活動頻度」について

季節ごとの活動 月 1 回 月 2 ~ 4 回 日常 月 5 回以上 月 1 0 回以上、の順となっている。季節ごとの活動が 4 0 . 9 %と突出しているのが目立つ。

(2 6) 問 2 8 「活動に参加している理由」について

社会貢献 自分のためになるから 人のためになるから 友人・知人などの仲間が増えるから 活動にやり甲斐があるから 活動内容が良く楽しいから 余暇を有効に活用できるから 感謝されるから、の順となっている。

中高年者の 5 2 . 6 %もの人が「社会貢献」を意識していることは特筆に値する。

(2 7) 問 2 9 「主な活動内容」について

地域社会活動 文化・スポーツ関係 学校教育関係 老人福祉関係 平和・人権関係 世代間交流関係 障害者福祉関係 社会教育関係 家事サービス関係 情報生活関係の順となっている。

「地域社会」における活動が他を大きく引き離しており、このことから地域社会における社会活動のリーダーの存在が重要であることが分かる。

(2 8) 問 3 0 「今後のボランティア活動への参加の意向」について

「NPO等に参加したい」3 . 2 %、「地域で自分にあった活動があれば参加する」6 6 . 1 %、「現在行っている活動を継続する」9 . 1 %、「ボランティア活動には

関心がない」１６．８％となっている。

ボランティア活動に関心を持たない人が男性の１９．７％に対し、女性は１１．５％しかおらず、女性の方がボランティア活動への関心が男性よりも高いことが窺われる。

平成１６年の調査では が１．５％、 が５４．２％、 が６．１％、 が１７．９％であった。これからみると、ボランティア活動への理解と関心は着実に高まってきており、参加する人も増えているのが分かる。

（２９）問３１「今後、勤労者のライフサポートとして望まれる活動」について

仕事の紹介 年金相談 介護などの福祉 健康増進活動 趣味・娯楽活動
生活全般に関する相談 生活資金援助 介護保険についてのアドバイス 若者や
子供とつながりを持つ活動 家事や買い物など生活支援、等が上位にランクされている。

男女とも「仕事の紹介」が最多となっている。行政としてはこれに対する適切な対策を講じることが強く望まれる。また、企業においても中高年者向けの職務開発に真剣に取り組んでいただくことを希望する。

（３０）「自由意見」について

・「中年（特に男性）の働く場は限られていて厳しい」といった意見が多く見られた。中には「定年後の心配をする方は現在が平和の証拠。契約社員の私にとっては定年後の心配よりも、今現在の日々のことが一番気に掛かる」といった切実な声も聞かれた。一方で「定年延長よりも、若者に正規採用の道を広げることで結婚や出産の条件も整う。活力ある社会の実現には若い層の存在こそが重要である」とか「子供を社会で育てるのも大切であるが、その子供を支える２０～５０歳代の就労が安定していない。まずは働き盛りの世代の仕事の確保を最優先して考えて欲しい」といった意見もあった。要は「働きたい人がいつでも働けるような社会になってもらいたい」との意見に集約される。また、「多数の非正規社員が蔓延しており、雇用不安および所得格差の解消をすることが急務である」といった意見も目を引いた。更には「今の日本の政治・経済を見ていると、自分の定年後よりも国の方が心配である」といった意見も見られた。

・「平均寿命が延びた現在、６０歳や７０歳はまだまだ老後とは言えない。元気なうちは誰しも働いて社会と関わりあって生きていきたいと思っている。そんな社会になるように労福協に課せられた責任は大きいと思う。共に頑張って弱者が泣くことのない社会にしていこう」とエールを送ってくれる回答者もいた。嬉しいことに「本アンケートに回答することにより、普段漫然と考えていた今後の生活に関して、改めて考察を巡らす契機を与えられ感謝している」といった声も聞かれた。

・「本アンケートの結果を是非活かして欲しい」という意見が多く見られた。この声に応えることこそが今回のアンケートを実施した真の意義と言えよう。

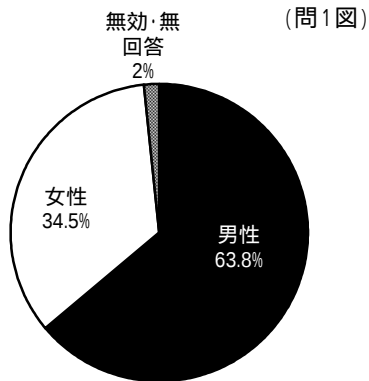
調査結果

【あなた自身のことについてお聞きします】

問1. あなたの性別をお答え下さい。

n=2,423

	計
男性	1,546
女性	835
無効・無回答	42
合計	2,423

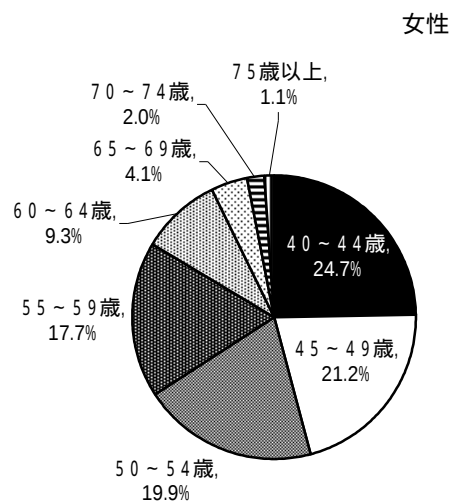
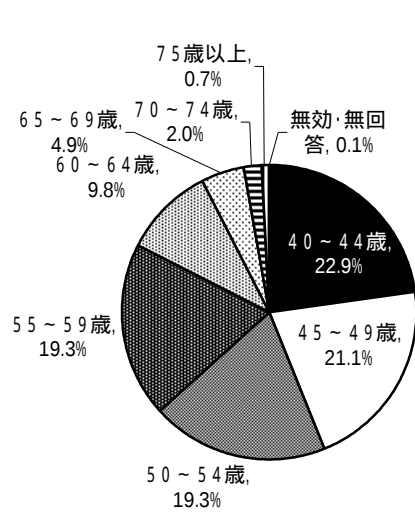


問2. あなたの年齢をお答え下さい。

n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
40～44歳	354	206	3	563	23.2%
45～49歳	326	177	7	510	21.0%
50～54歳	298	166	3	467	19.3%
55～59歳	298	148	7	453	18.7%
60～64歳	152	78	1	231	9.5%
65～69歳	75	34	5	114	4.7%
70～74歳	31	17	3	51	2.1%
75歳以上	11	9	1	21	0.9%
無効・無回答	1	0	12	13	0.5%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

(問2図)



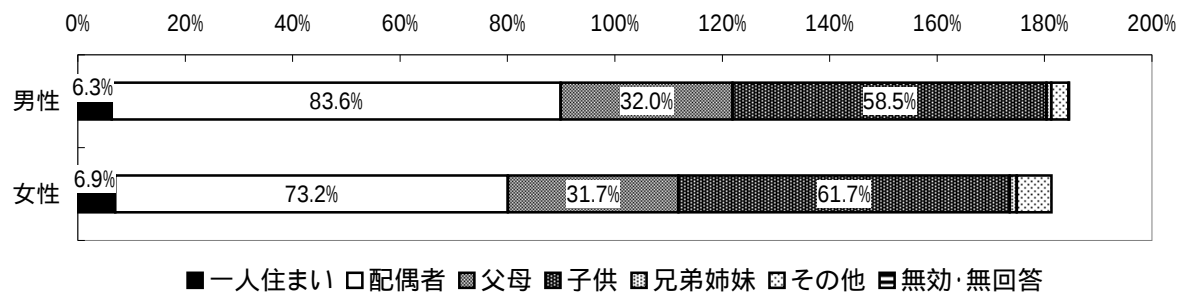
問3. あなたの家族構成をお答え下さい。(複数回答)

初めに男女別の家族構成について示す。

n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
一人住まい	98	58	2	158	6.5%
配偶者	1,292	611	20	1,923	79.4%
父母	495	265	7	767	31.7%
子供	904	515	12	1,431	59.1%
兄弟姉妹	14	11	1	26	1.1%
その他	49	54	0	103	4.3%
無効・無回答	2	0	15	17	0.7%
合計	2,854	1,514	57	4,425	182.6%

(問3 - 1図)



家族構成について聞いた。
 男性では「配偶者」(83.6%)との同居が多いのに対して、女性では「子供」(61.7%)との同居の割合が多くなっている。

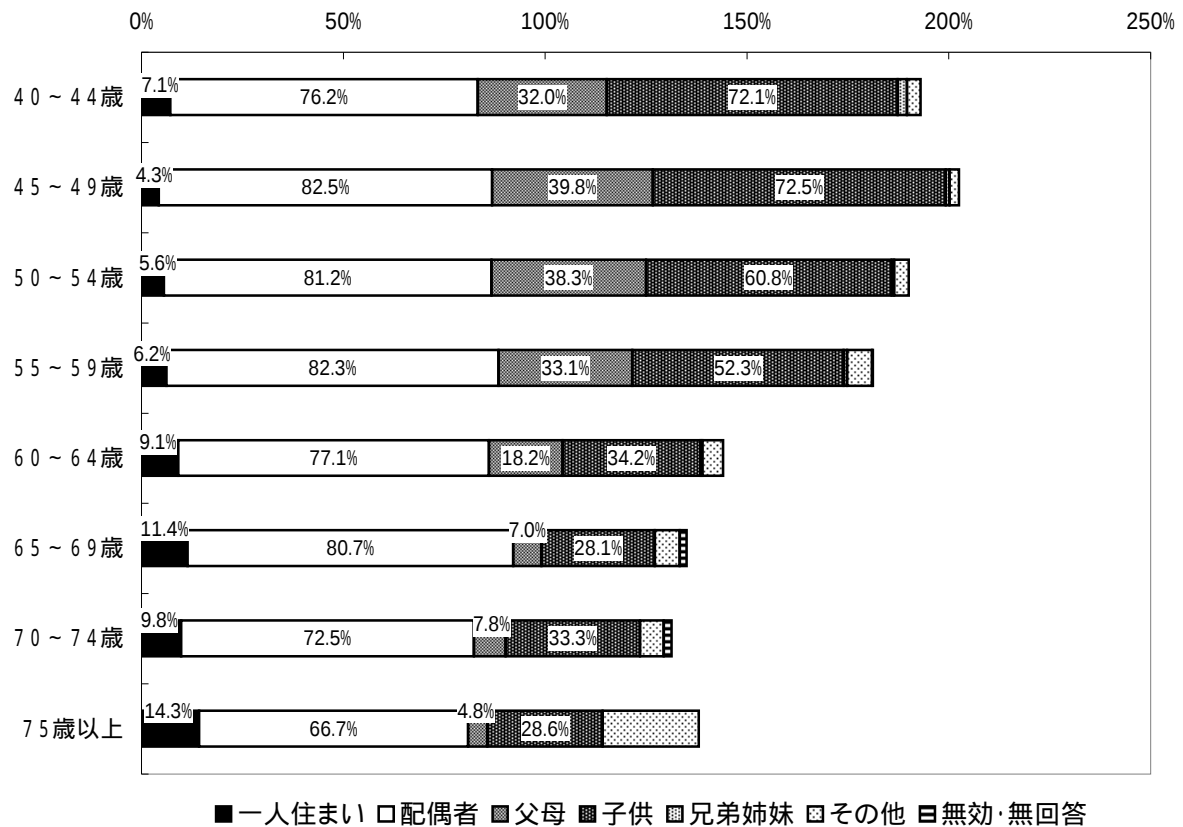
「その他」
 ▶子供の配偶者と孫など多数 ▶義父母 ▶義祖父母 ▶兄弟・姉妹 ▶単身赴任中、等々

次いで年齢別の家族構成について示す。

n=2,423

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
一人住まい	40	22	26	28	21	13	5	3	0	158
配偶者	429	421	379	373	178	92	37	14	0	1,923
父母	180	203	179	150	42	8	4	1	0	767
子供	406	370	284	237	79	32	17	6	0	1,431
兄弟姉妹	13	5	3	4	1	0	0	0	0	26
その他	19	12	17	28	12	7	3	5	0	103
無効・無回答	0	0	0	1	0	2	1	0	13	17
合計	1,087	1,033	888	821	333	154	67	29	13	4,425

(問3 - 2図)



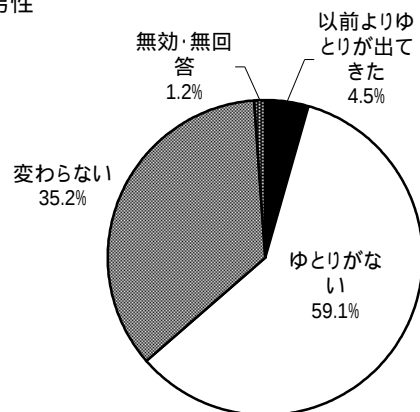
問4 . 現在の、あなたの暮らし向きについてお聞きかせください。

n=2,423

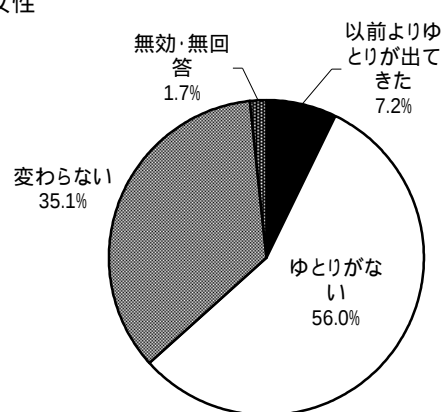
	男性	女性	無効・無回答	計	%
以前よりゆとりが出てきた	70	60	0	130	5.4%
ゆとりがない	914	468	20	1,402	57.9%
変わらない	544	293	10	847	35.0%
無効・無回答	18	14	12	44	1.8%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

(問4 - 1図)

男性



女性



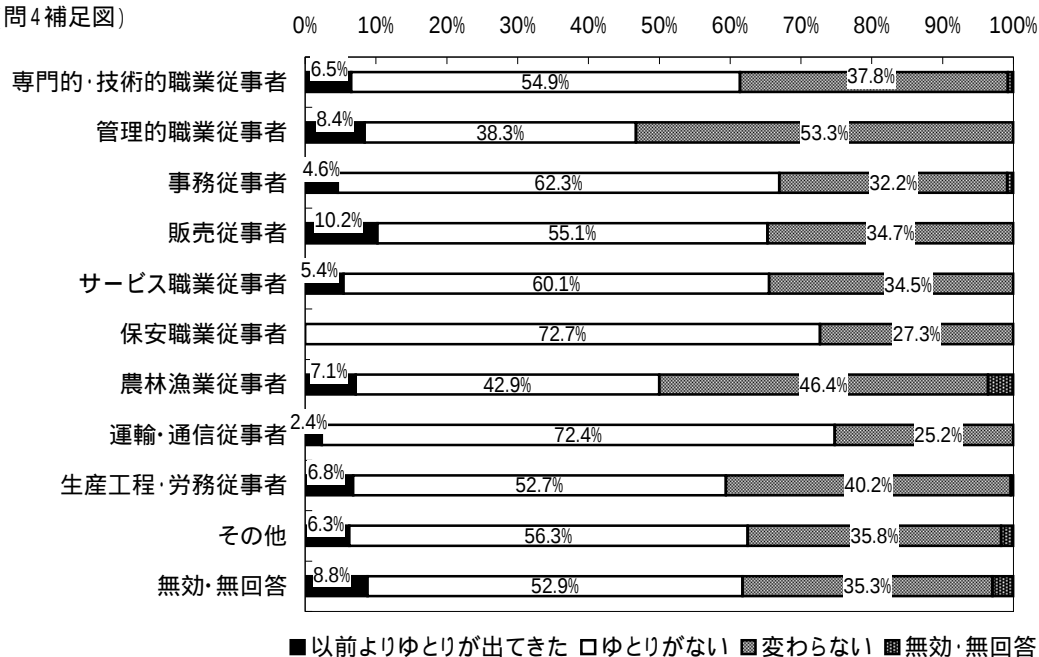
現在の暮らし向きについて聞いた。

「ゆとりがない」(57.9%)、次いで「変わらない」(35.0%)、「ゆとりが出て来た」(5.4%)の順となり、現在の暮らし向きにゆとりがないことが顕著に現れている。

また、男女間での暮らし向きについては認識の大差はない。

参考として職業別に意識の違いを掲載しておく。

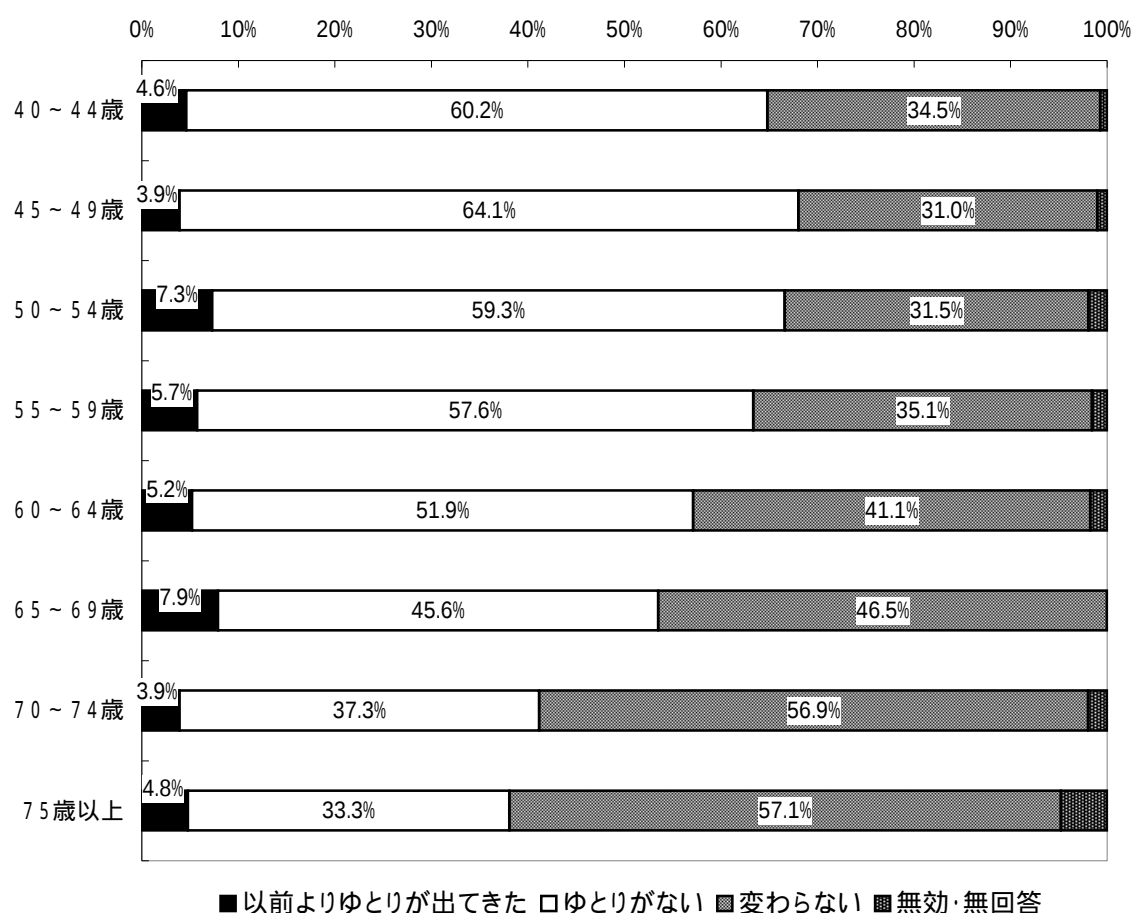
(問4補足図)



n=2,423

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
以前よりゆとりが出てきた	26	20	34	26	12	9	2	1	0	130
ゆとりがない	339	327	277	261	120	52	19	7	0	1,402
変わらない	194	158	147	159	95	53	29	12	0	847
無効・無回答	4	5	9	7	4	0	1	1	13	44
合計	563	510	467	453	231	114	51	21	13	2,423

(問4 - 2図)



年齢別では若い年齢層の方が「ゆとりがない」との回答比率が高く、逆に高年齢層の方は「変わらない」に高い回答比率が見受けられ、反対の結果がでた。

特に「ゆとりがない」と回答された「45歳～49歳」の年齢層(64.1%)に比率が高く、次いで「40歳～44歳」(60.2%)の年齢層となっている。また、「65歳～69歳」の年齢層(7.9%)が「以前よりゆとりが出てきた」と回答された。

問5. あなたの生活の不安や悩みについてお聞きかせください。(複数回答)

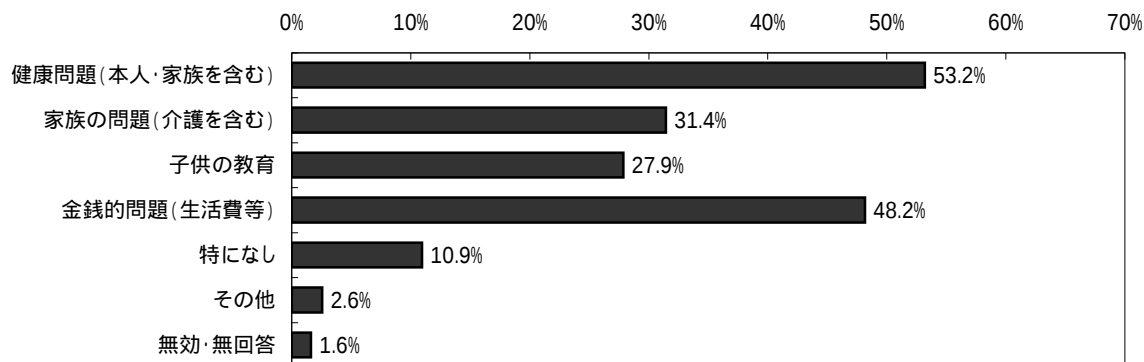
	計
健康問題(本人・家族を含む)	1,289
家族の問題(介護を含む)	762
子供の教育	675
金銭的問題(生活費等)	1,167
特になし	265
その他	62
無効・無回答	39
合計	4,259

生活の不安や悩みについて聞いた。
最も多かったのは「健康問題(本人・家族を含む)」(53.2%)、以下「金銭的問題(生活費等)」(48.2%)、「家族の問題(介護を含む)」(31.4%)、「子供の教育」(27.9%)と続く。特に健康面や金銭的な不安を抱いている回答が目立った。

また「その他」欄での記述において、子供の将来に対する(就職・結婚、等々)不安の回答が最も多くあり、親が子を想う気持ちの表れが出ている。

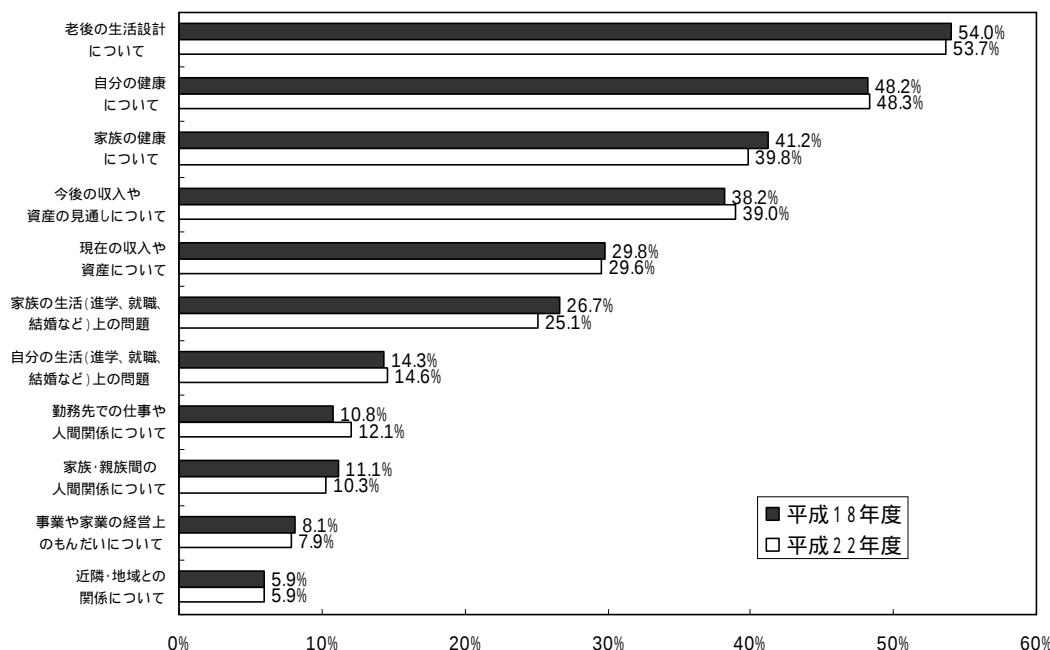
「その他」
▶子供の将来(就職・結婚等) ▶自身の老後(生活資金・就職等) ▶相続問題 ▶後継者、等々

(問5図)



参考: 平成22年度 内閣府国民生活に関する世論調査
一部抜粋 「日常生活での悩みや不安の内容」

18年度 n=4,018 22年度 n=4,229



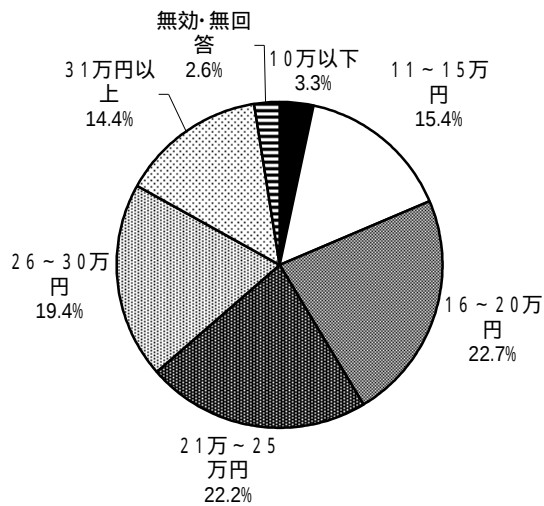
問6. 生活費はどれくらいを必要とされますか？

n=2,423

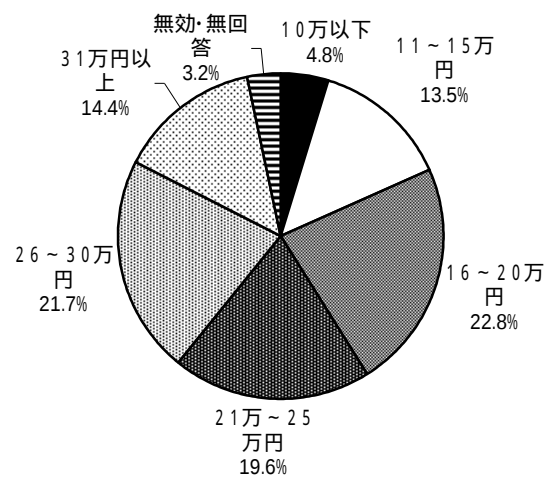
	男性	女性	無効・無回答	計	%
10万円以下	51	40	4	95	3.9%
11～15万円	238	113	5	356	14.7%
16～20万円	351	190	1	542	22.4%
21万～25万円	343	164	5	512	21.1%
26～30万円	300	181	9	490	20.2%
31万円以上	223	120	5	348	14.4%
無効・無回答	40	27	13	80	3.3%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

(問6 - 1図)

男性



女性



必要な生活費について聞いた。

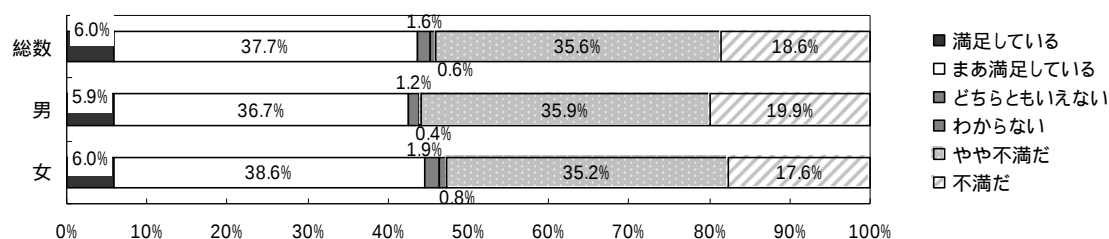
全体的には回答の多いものより「16万～20万円」(22.4%)、「21万～25万」(21.1%)、「26万～30万」(20.2%)と続き、月の生活費は20万円台に回答が集まった。

男女別では「21万～25万」は男性(22.2%)に対し女性(19.6%)であり、「26万～30万」は女性(21.7%)に対し男性(19.4%)と25万円を境に男女比率が逆転している。

参考：平成22年度 内閣府国民生活に関する世論調査

一部抜粋 「現在の生活の各面での満足度(-所得・収入-)」

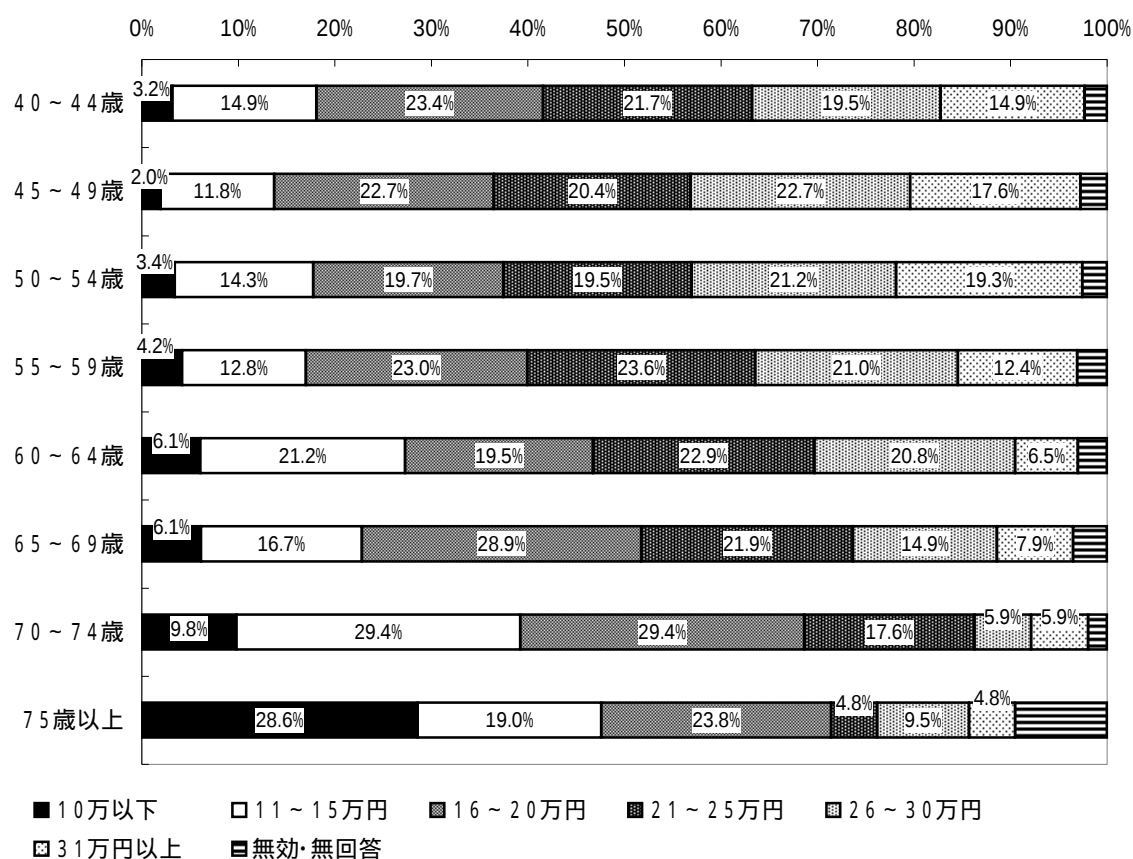
(総数n=6,357 男=2,945 女=3,412)



n=2,423

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
10万以下	18	10	16	19	14	7	5	6	0	95
11～15万円	84	60	67	58	49	19	15	4	0	356
16～20万円	132	116	92	104	45	33	15	5	0	542
21～25万円	122	104	91	107	53	25	9	1	0	512
26～30万円	110	116	99	95	48	17	3	2	0	490
31万円以上	84	90	90	56	15	9	3	1	0	348
無効・無回答	13	14	12	14	7	4	1	2	13	80
合計	563	510	467	453	231	114	51	21	13	2,423

(問6 - 2図)



次に年齢別にみる。「40歳～49歳」と「60歳～69歳」の年齢層では「16万～20万」と回答された方が多く、「50歳～59歳」の年齢層では「21万～25万」との回答があった。どの年齢層においても、毎月の必要な生活費が「16万～25万」とであると読み取れる。

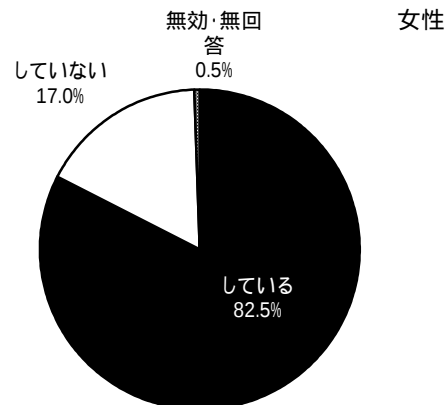
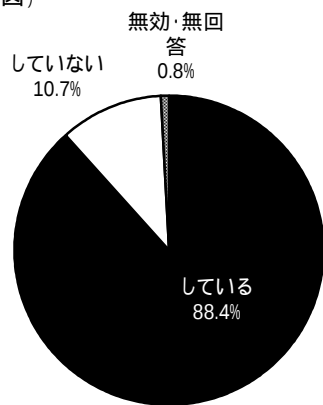
【仕事についてお聞きします】

問7. 現在、お仕事に従事されていますか？

n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
している	1,367	689	18	2,074	85.6%
していない	166	142	12	320	13.2%
無効・無回答	13	4	12	29	1.2%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

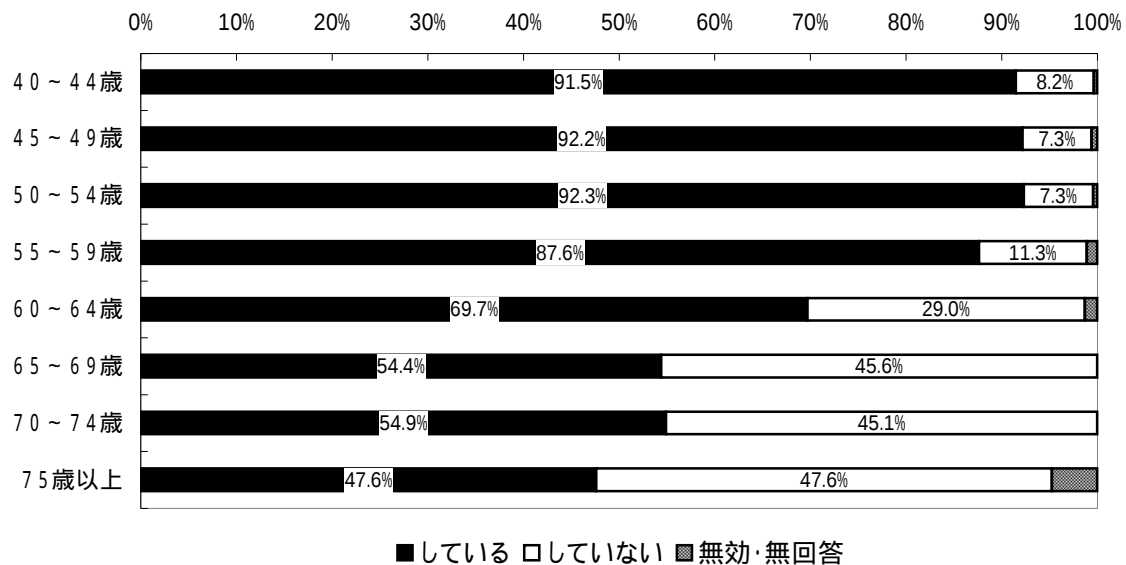
(問7 - 1図)



n=2,423

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
している	515	470	431	397	161	62	28	10	0	2,074
していない	46	37	34	51	67	52	23	10	0	320
無効・無回答	2	3	2	5	3	0	0	1	13	29
合計	563	510	467	453	231	114	51	21	13	2,423

(問7 - 2図)



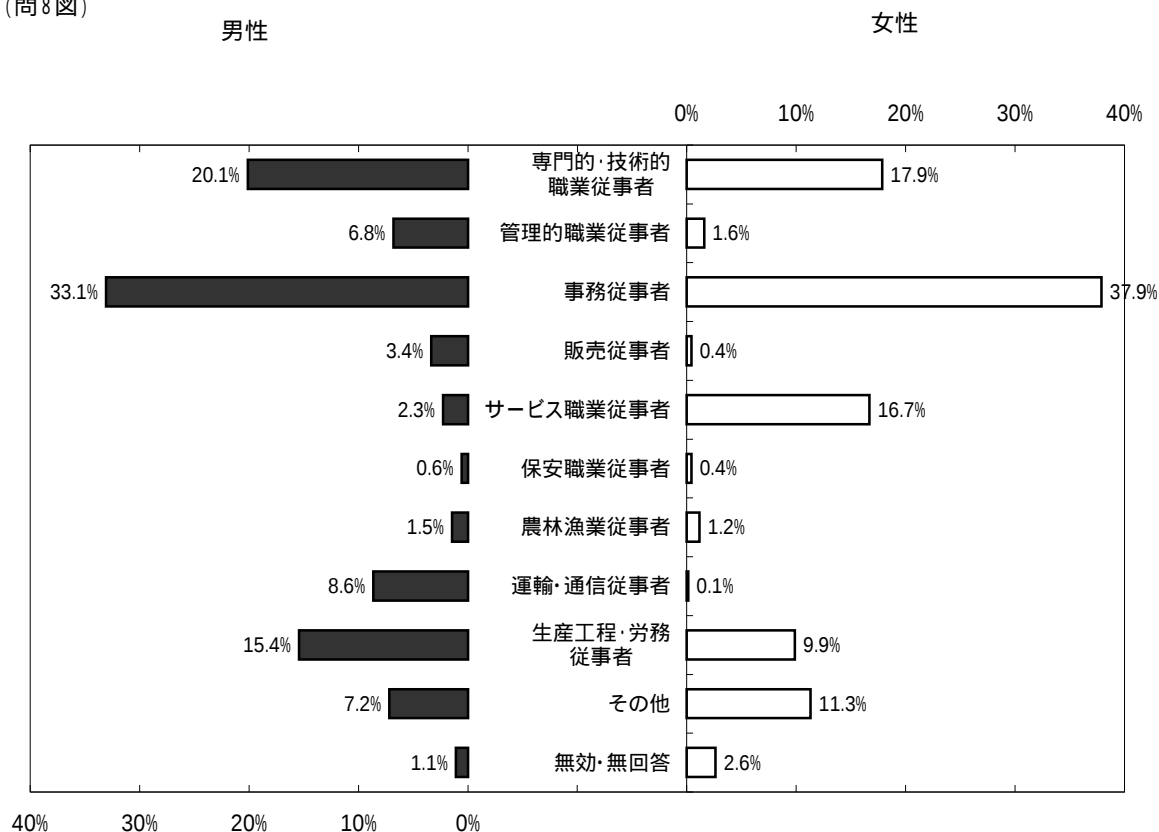
問8.問7で「1)している」と答えられた方にお聞きます。

あなたが現在従事している職種は何ですか。

n=2,074

	男性	女性	無効・無回答	計	%
専門的・技術的職業従事者	275	123	1	399	19.2%
管理的職業従事者	93	11	3	107	5.2%
事務従事者	452	261	1	714	34.4%
販売従事者	46	3	0	49	2.4%
サービス職業従事者	31	115	2	148	7.1%
保安職業従事者	8	3	0	11	0.5%
農林漁業従事者	20	8	0	28	1.4%
運輸・通信従事者	118	1	8	127	6.1%
生産工程・労務従事者	211	68	2	281	13.5%
その他	98	78	0	176	8.5%
無効・無回答	15	18	1	34	1.6%
合計	1,367	689	18	2,074	100.0%

(問8図)



「その他」

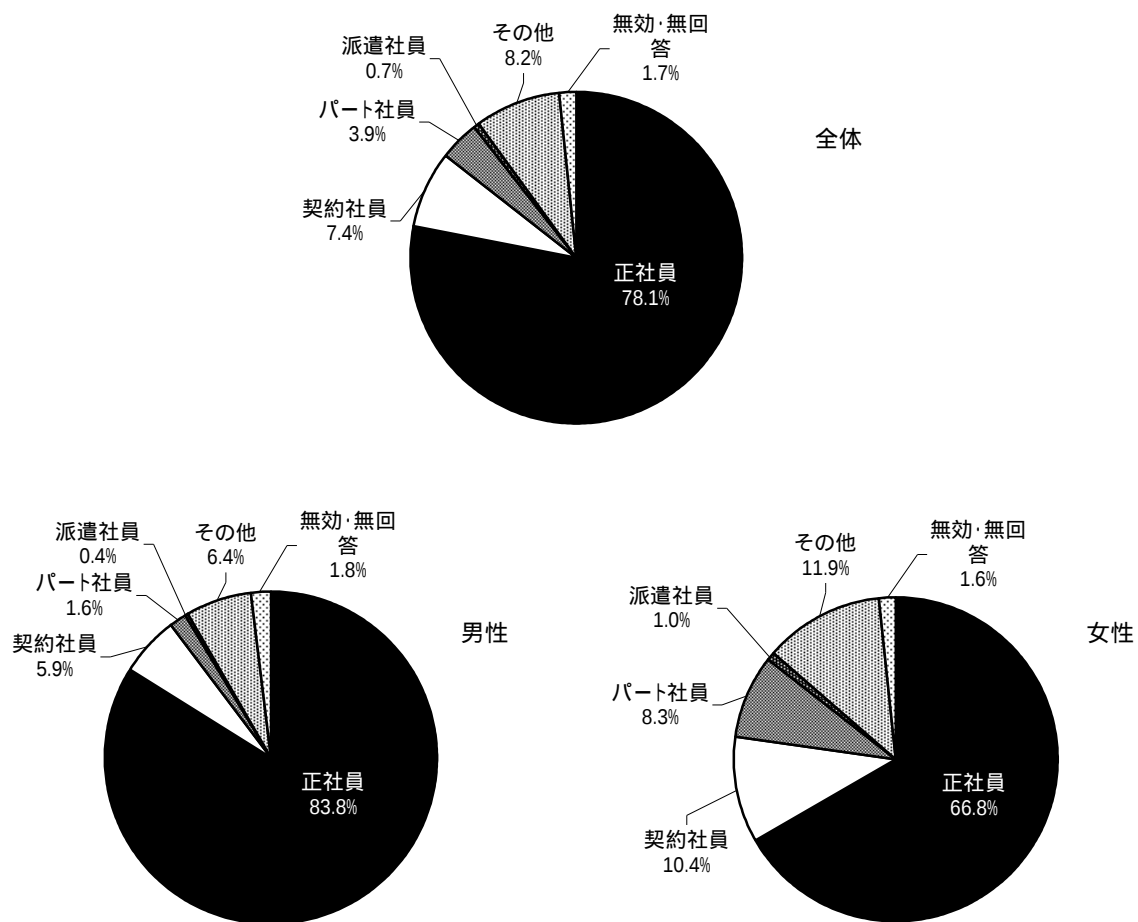
▶シルバー人材センター会員 ▶日雇い労働 ▶障害者作業所 ▶NPO法人職員 ▶保育士 ▶公務員、等々

問9.問7で「1」している」と答えられた方にお聞きます。
あなたの現在の就業形態をお聞きかせください。

n=2,074

	男性	女性	無効・無回答	計	%
正社員	1,145	460	15	1,620	78.1%
契約社員	81	72	1	154	7.4%
パート社員	22	57	1	80	3.9%
派遣社員	6	7	1	14	0.7%
その他	88	82	0	170	8.2%
無効・無回答	25	11	0	36	1.7%
合計	1,367	689	18	2,074	100.0%

(問9-1図)



就業形態について聞いた。

男性の「正社員」率(83.8%)に対して、女性の「正社員」率(66.8%)が少し低くなっているが、「契約社員」、「パート社員」の比率が高くなっている。

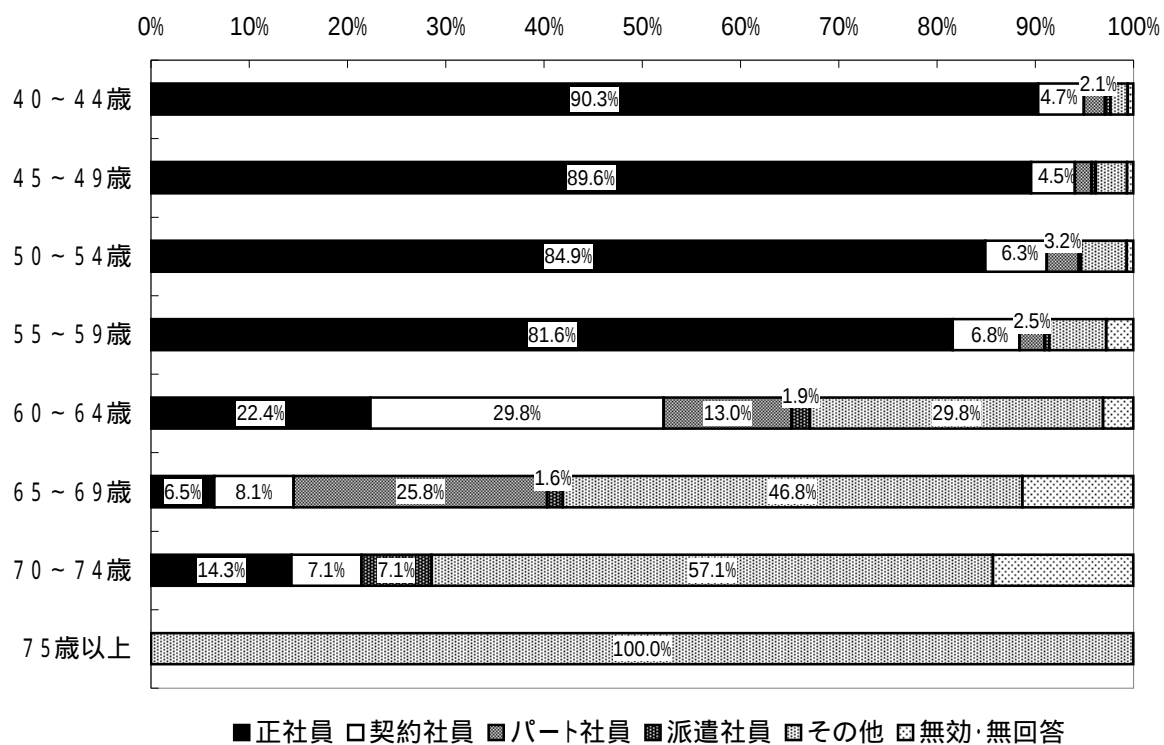
「その他」

▶シルバー人材センターで時々 ▶県の緊急雇用 ▶臨時職員 ▶嘱託職員 ▶経営者等

n=2,074

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
正社員	465	421	366	324	36	4	4	0	0	1,620
契約社員	24	21	27	27	48	5	2	0	0	154
パート社員	11	8	14	10	21	16	0	0	0	80
派遣社員	3	2	1	2	3	1	2	0	0	14
その他	9	15	20	23	48	29	16	10	0	170
無効・無回答	3	3	3	11	5	7	4	0	0	36
合計	515	470	431	397	161	62	28	10	0	2,074

(問9 - 2図)



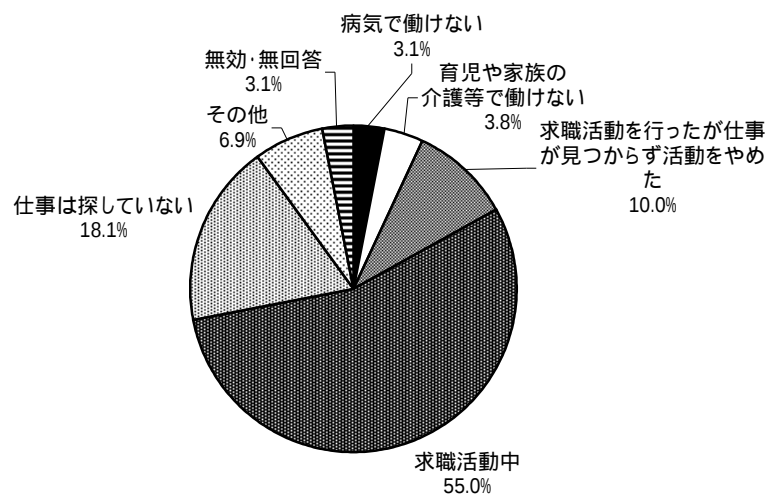
年齢別で見ると正社員率が60歳を境に激減し、契約社員、パート社員が年齢を重ねていくに従い比率が高くなっているのがわかる。

問10. 問7で「2)していない」と答えられた方にお聞きます。
していない理由をお聞かせ下さい

n=320

	計
病気で働けない	10
育児や家族の介護等で働けない	12
求職活動を行ったが仕事が見つからず活動をやめた	32
求職活動中	176
仕事は探していない	58
その他	22
無効・無回答	10
合計	320

(問10図)



問7で「2)していない」と回答した方に、仕事に従事していない理由を聞いた。
回答者の半数が「求職活動中」(55.0%)と答えている。次いで「仕事は探していない」(18.1%)、「求職活動を行なったが仕事が見つからず活動をやめた」(10.0%)、「育児や家族の介護等で働けない」(3.8%)となっている。

「その他」
▶シルバー人材センターの会員▶職業訓練中、等々

問11. 問7で「2)していない」と答えられた方にお聞きます。

あなたの求職活動を行なう中で困ったことはありますか？(複数回答)

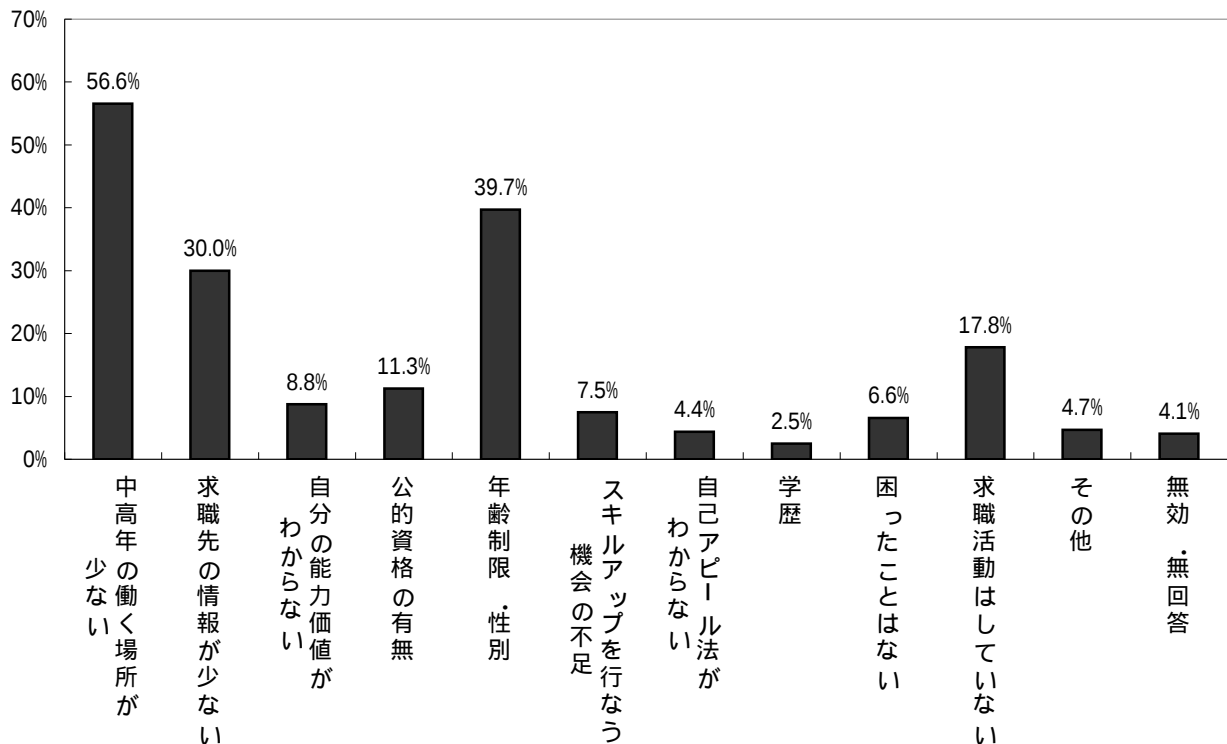
n=320

	計
中高年の働く場所が少ない	181
求職先の情報が少ない	96
自分の能力価値がわからない	28
公的資格の有無	36
年齢制限・性別	127
スキルアップを行なう機会の不足	24
自己アピール法がわからない	14
学歴	8
困ったことはない	21
求職活動はしていない	57
その他	15
無効・無回答	13
合計	620

問7で「2)していない」と回答した方に具体的に聞いた。

求職活動中での困った事に対する回答は約半数(56.6%)の方が「中高年の働く場所が少ない」と答え、続いて「年齢制限・性別」(39.7%)、「求職先の情報が少ない」(30.0%)が高い比率となっている事をみれば、中高年の就職希望者に対する雇用対策の充実が求められている。

(問11図)



「その他」

▶ポリテクセンターに雇用保険が切れている人でも入れるようにしてほしい ▶人間関係 ▶経歴で困った ▶面接をしてもらえない ▶子供が小さいので難しい ▶希望する求人がない、等々

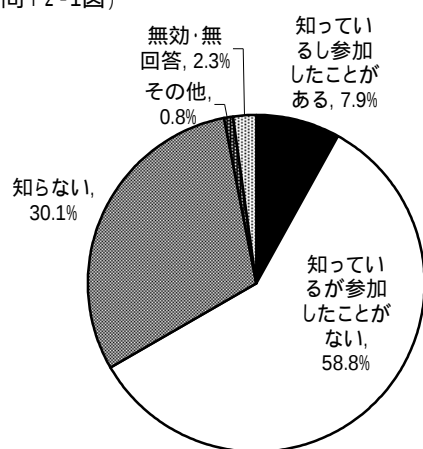
問12. 以下すべての方にお聞きします。

再就職に向けた各種支援セミナーの開催や公共職業訓練を知っていますか？

n=2,423

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
知っているし参加したことがある	32	23	31	25	41	23	14	2	0	191
知っているが参加したことがない	327	312	277	274	131	64	24	9	0	1,418
知らない	193	164	149	135	47	24	9	4	0	725
その他	3	5	1	5	3	1	0	2	0	20
無効・無回答	8	6	9	14	9	2	4	4	13	69
合計	563	510	467	453	231	114	51	21	13	2,423

(問12-1図)

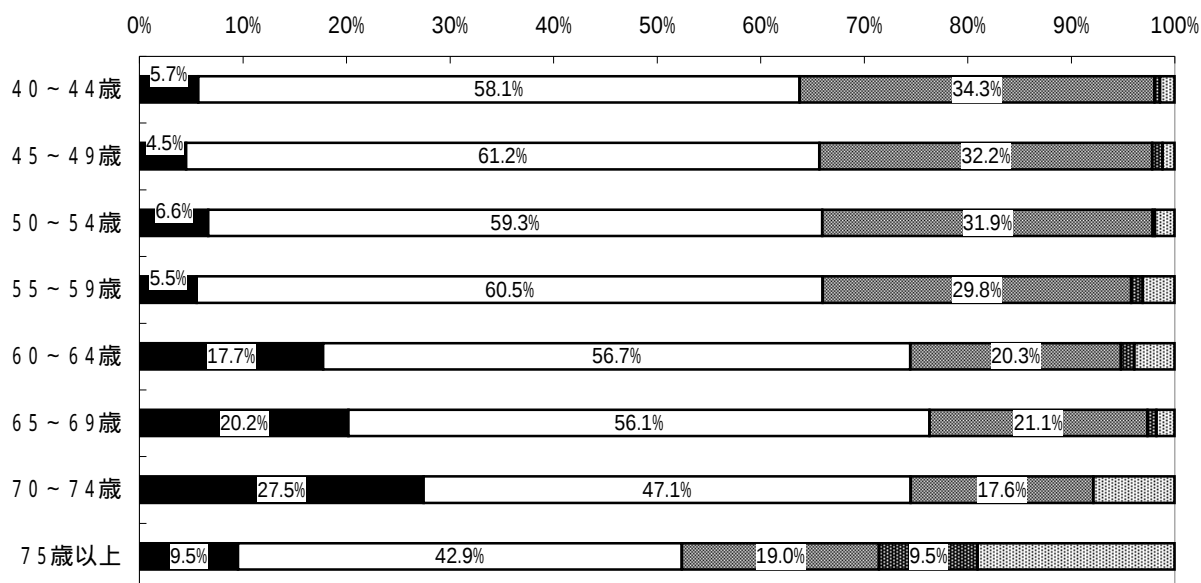


すべての方に再就職に向けた各種セミナー及び公共職業訓練の認知度ついて聞いた。約7割の方が「知っているし参加したことがある」「知っているが参加したことがない」と回答し、約3割の方が「知らない」と回答している。また、受講に関しては60歳以上の方の受講率が高く、逆に40歳・50歳代の受講率が低い結果となっている。

「その他」

▶少し知っている程度 ▶訓練申込中 ▶雇用保険が切れていて受講したいのに受講できない ▶本当に訓練が必要な人が訓練を受けられているのか疑問である ▶訓練受講にいたる選考基準の透明性を確保してほしい ▶訓練後の就職までの面倒を見て欲しい、等々

(問12-2図)



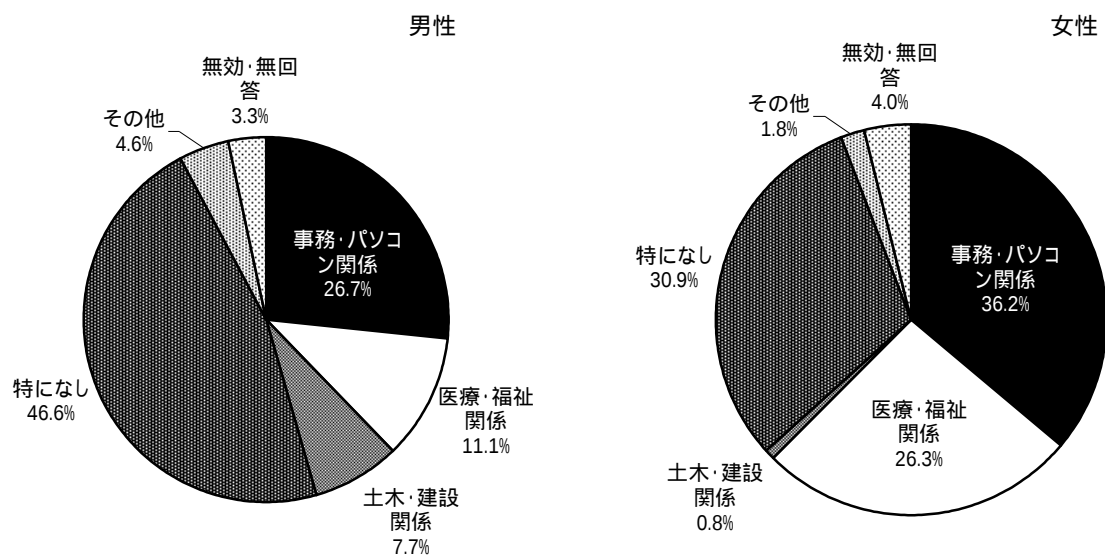
■ 知っているし参加したことがある □ 知っているが参加したことがない ■ 知らない ■ その他 ■ 無効・無回答

問13. あなたが身につけたいと考える職業訓練資格は何ですか？

n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
事務・パソコン関係	413	302	2	717	29.6%
医療・福祉関係	172	220	4	396	16.3%
土木・建設関係	119	7	1	127	5.2%
特になし	720	258	21	999	41.2%
その他	71	15	1	87	3.6%
無効・無回答	51	33	13	97	4.0%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

(問13-1図)



身に付けたい資格・及び職業訓練資格について聞いた。

男女別では、女性に「事務・パソコン関係」(36.2%)の希望が多く、続いて「医療・福祉」(26.3%)となる。

男性は女性ほど比率が高くはないが「事務・パソコン関係」は26.7%あり、以下「医療・福祉」(11.1%)「土木・建設関係」(7.7%)の順となる。特に男性の場合、46.6%の方が「特になし」と約半数あった。

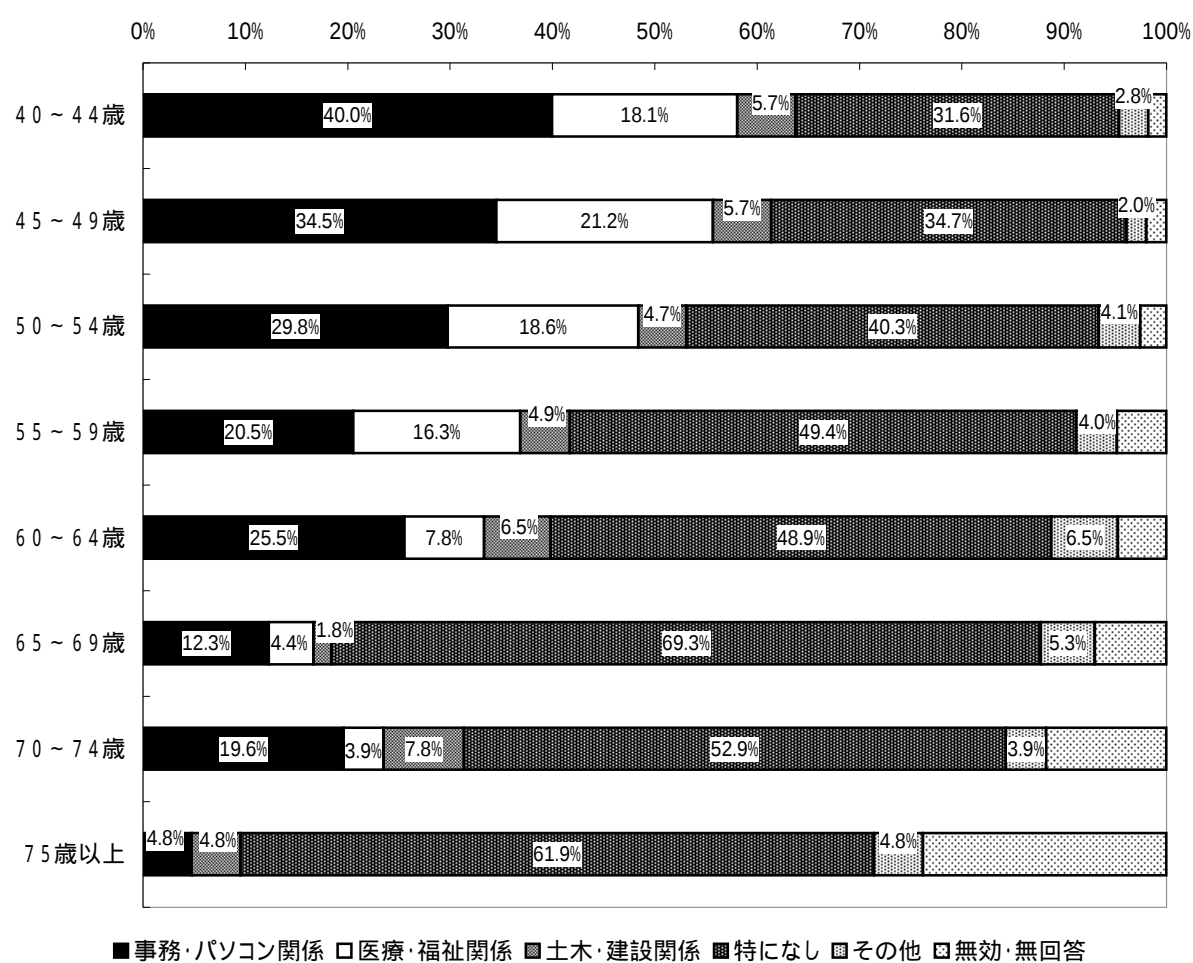
「その他」

▶造園関係 ▶調理師 ▶農業関係 ▶縫製 ▶リフォーム ▶設備関係 ▶重機運転免許 ▶産業カウンセラー ▶キャリアコンサルタント ▶電気・工業関係 ▶FP・社会保険労務士、等々

n=2,423

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
事務・パソコン関係	225	176	139	93	59	14	10	1	0	717
医療・福祉関係	102	108	87	74	18	5	2	0	0	396
土木・建設関係	32	29	22	22	15	2	4	1	0	127
特になし	178	177	188	224	113	79	27	13	0	999
その他	16	10	19	18	15	6	2	1	0	87
無効・無回答	10	10	12	22	11	8	6	5	13	97
合計	563	510	467	453	231	114	51	21	13	2,423

(問13-2図)

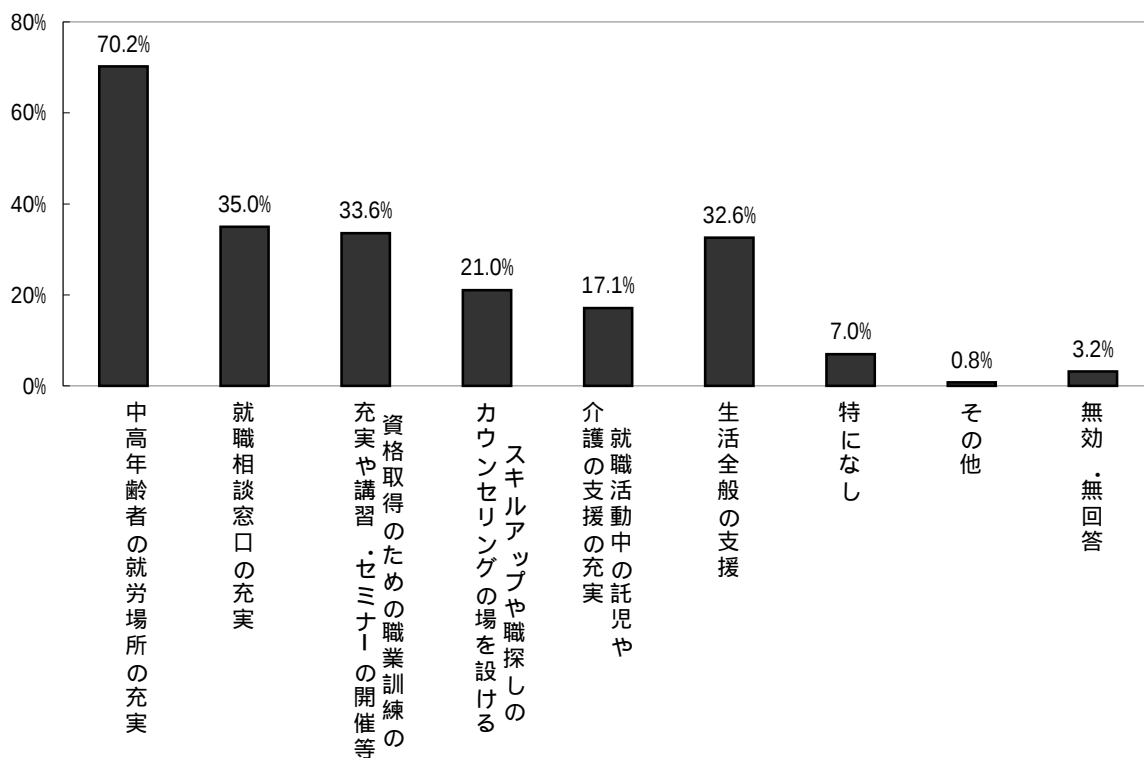


問14. 中高年齢者の再就職支援としてどのような支援を求めますか？（複数回答）

n=2,423

	計
中高年齢者の就労場所の充実	1,701
就職相談窓口の充実	848
資格取得のための職業訓練の充実や講習・セミナーの開催等	813
スキルアップや職探しのカウンセリングの場を設ける	509
就職活動中の託児や介護の支援の充実	414
生活全般の支援	790
特になし	169
その他	19
無効・無回答	77
合計	5,340

(問14図)



再就職支援についての要望を聞いた。「就労場所の充実」(70.2%)がもっとも多く、以下「就職相談の窓口の充実」(35.0%)、「資格取得や職業訓練の充実」(33.6%)、「生活全般の支援」(32.6%)の順となり、中高年の就職状況の厳しさを感じる。前項、問11との回答と関連している。

「その他」

▶ 中高年と一般用に就職相談や募集を分けて欲しい ▶ 在宅就労、教養セミナー等 ▶ 就職先への支援金の拡充 ▶ 通信教育等への補助 ▶ 定年の引き上げ ▶ 語りべ の様なアルバイトや相談窓口としての役割 ▶ 独立支援 ▶ 現実的にどのような資質の者が求められているかを周知すること、等々

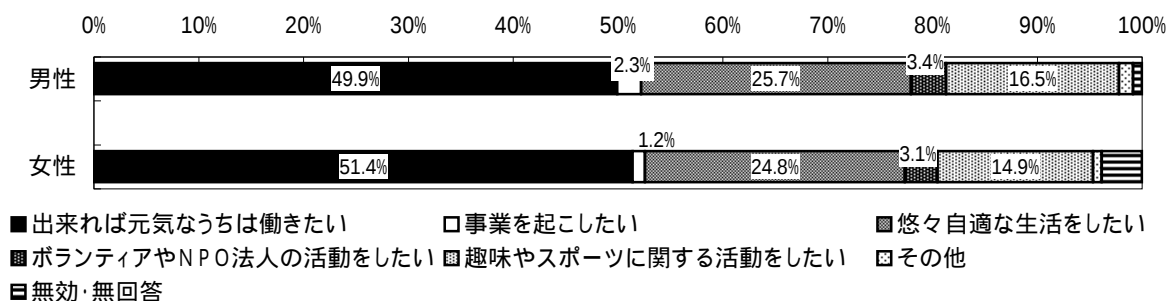
【定年後の過ごし方についてお聞きします】

問15. 定年後はどのような過ごし方をお考えですか？

n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
出来れば元気なうちは働きたい	772	429	15	1,216	50.2%
事業を起こしたい	35	10	2	47	1.9%
悠々自適な生活をしたい	398	207	3	608	25.1%
ボランティアやNPO法人の活動をしたい	52	26	0	78	3.2%
趣味やスポーツに関する活動をしたい	255	124	7	386	15.9%
その他	21	7	3	31	1.3%
無効・無回答	13	32	12	57	2.4%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

(問15図)



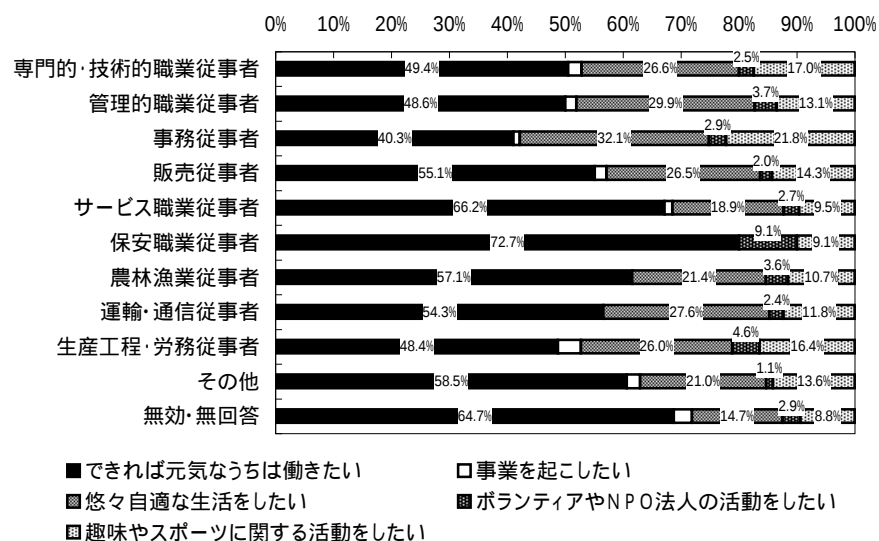
定年後の過ごし方は、半数の方が定年後も「元気なうちは働きたいと考えている」(50.2%)と回答している。反面、「悠々自適な生活をしたい」(25.1%)、「趣味やスポーツに関する活動をしたい」(15.9%)と回答している人も多くあり、両極に分かれる結果となった。

「その他」

▶農業、林業に従事したい ▶年金が少ないので働かなければならない ▶海外移住 ▶年金支給開始まで、等々

参考として職業別に意識の違いを掲載しておく。

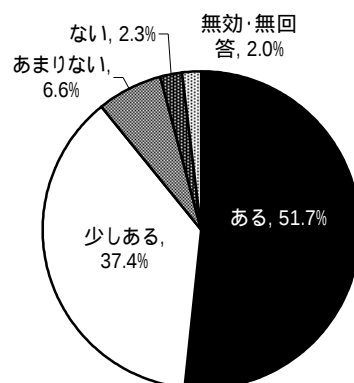
(問15補足図)



問16. 定年退職後の暮らしについて、不安をお感じですか？

(問16図)

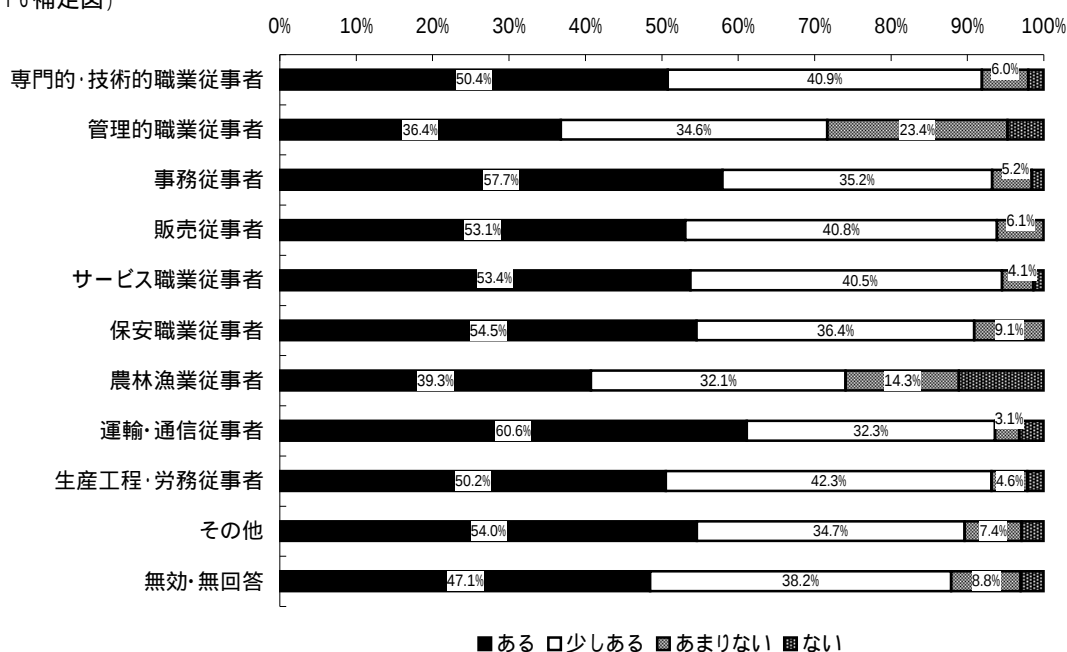
	計
ある	1,253
少しある	906
あまりない	160
ない	55
無効・無回答	49
合計	2,423



定年退職後の暮らしの不安について。
「不安がある」(51.7%)、「少しある」(37.4%)を足せば89.1%となり、大半の方が定年退職後に不安を感じている事がわかる。

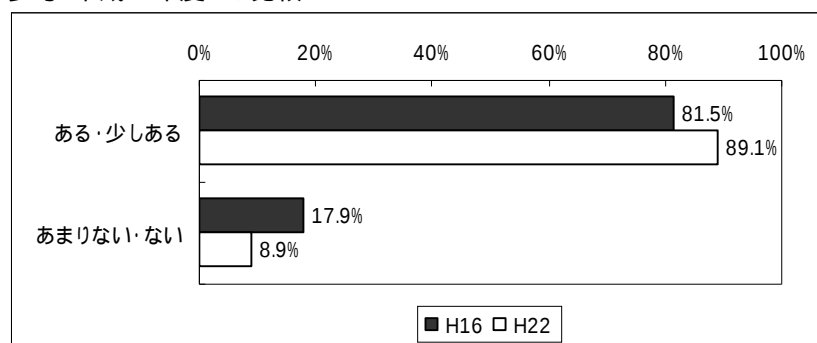
参考として職業別に意識の違いを掲載しておく。

(問16補足図)



参考：平成16年度との比較

「不安がない」人が17.9%から8.9%へ大幅に減少しており、暮らしの不安が高まってきていることが分かる。



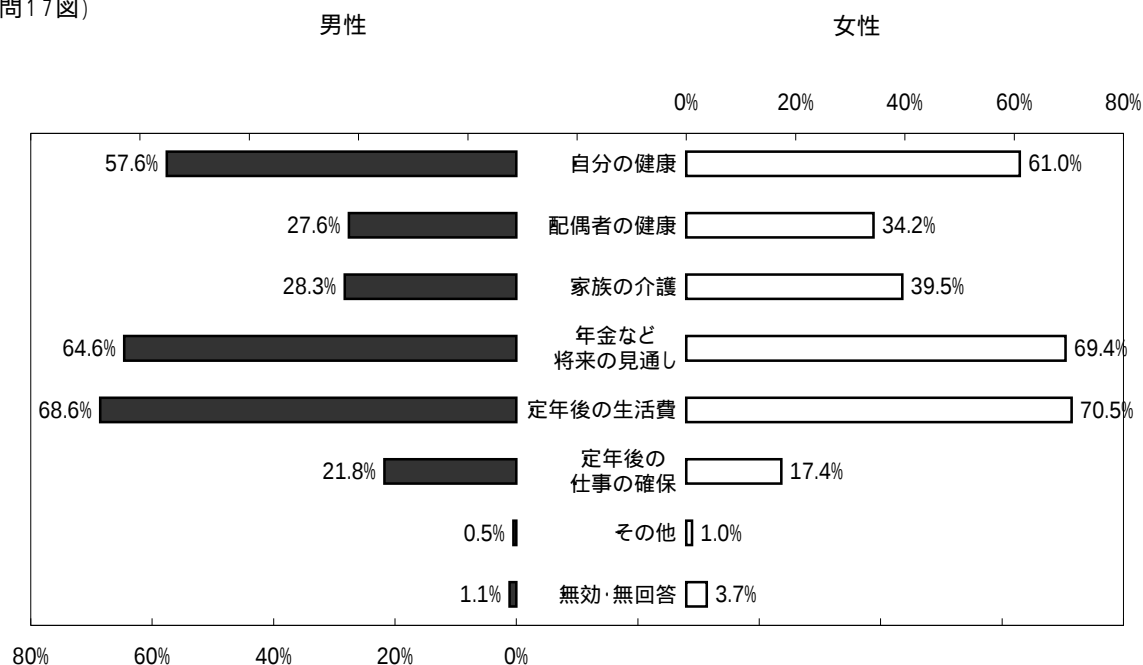
問17. 問16で「1)ある・2)少しある」と答えられた方にお聞きます。

どのようなことに不安をお感じですか？(複数回答)

n=2,159

	男性	女性	無効・無回答	計	%
自分の健康	802	474	17	1,293	59.9%
配偶者の健康	384	266	10	660	30.6%
家族の介護	394	307	7	708	32.8%
年金など将来の見通し	900	539	13	1,452	67.3%
定年後の生活費	955	548	9	1,512	70.0%
定年後の仕事の確保	303	135	3	441	20.4%
その他	7	8	1	16	0.7%
無効・無回答	16	29	12	57	2.6%
合計	3,761	2,306	72	6,139	284.3%

(問17図)



前項で「1)ある・2)少しある」と回答した方に、具体的に不安の要因を聞いた。

回答の多いものより「定年後の生活費」(70.0%)、「年金など将来の見通し」(67.3%)、「自分の健康」(59.9%)、「家族の介護」(32.8%)、「配偶者の健康」(30.6%)の順となっており、将来の見通しが見えない状況に不安が集中している事がわかる。

男女別では若干だが各項目、女性の回答比率が高いように見られる。

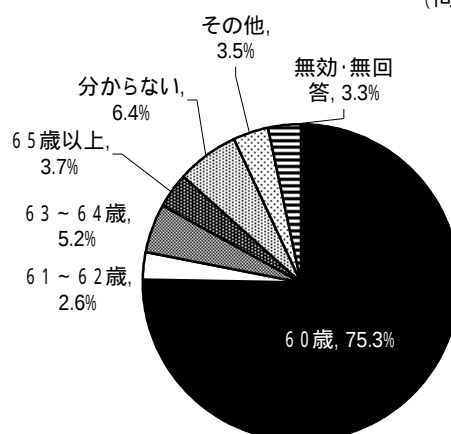
「その他」

▶過疎でなくなる生活基盤(交通、医療、店など) ▶家族の健康 ▶子供の将来 ▶子供の経済的自立、等々

問18. あなたの勤務先の定年年齢は何歳ですか？(でしたか？)

(問18図)

	計
60歳	1,825
61～62歳	63
63～64歳	126
65歳以上	89
分からない	155
その他	86
無効・無回答	79
合計	2,423



定年年齢について聞いた。

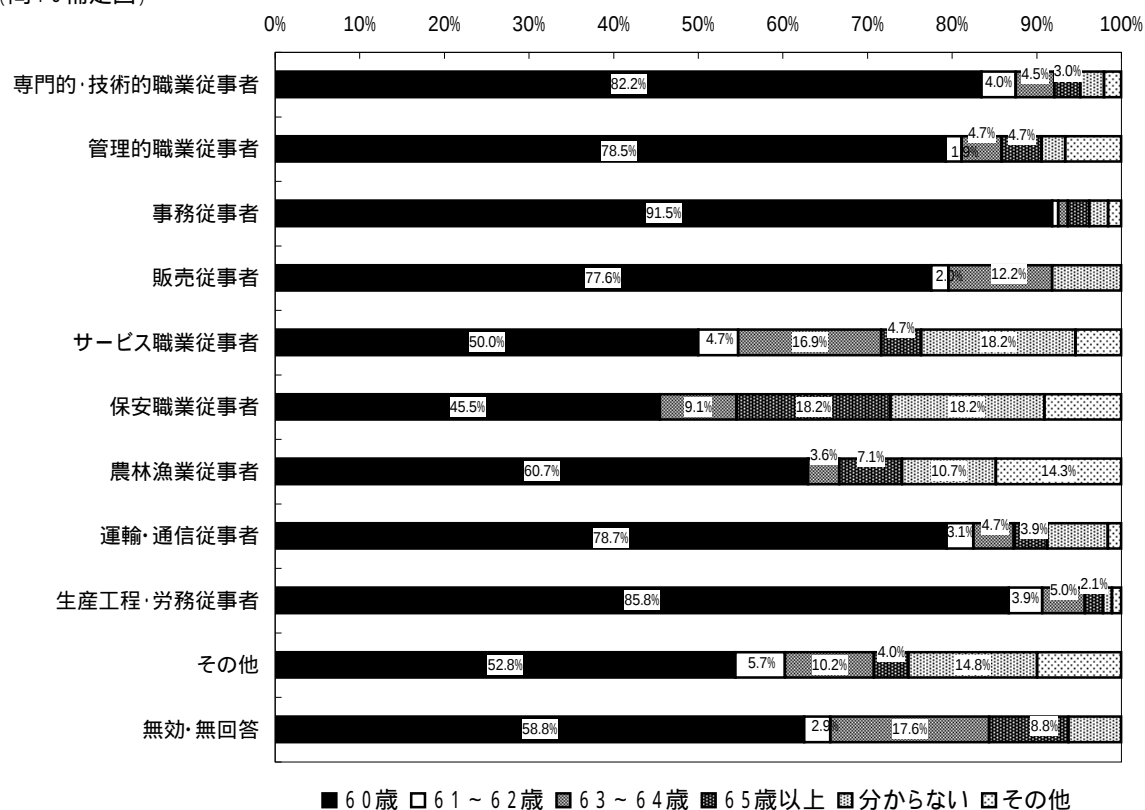
大半の方が「60歳」(75.3%)と回答され、以下「63歳～64歳」(5.2%)、「65歳以上」(3.7%)、「61歳～62歳」(2.6%)と続き、定年年齢が「わからない」と答えた人が6.4%いた。今回の集計結果では65歳までの定年年齢引上げが少しずつではあるが進んでいることがわかる。

「その他」

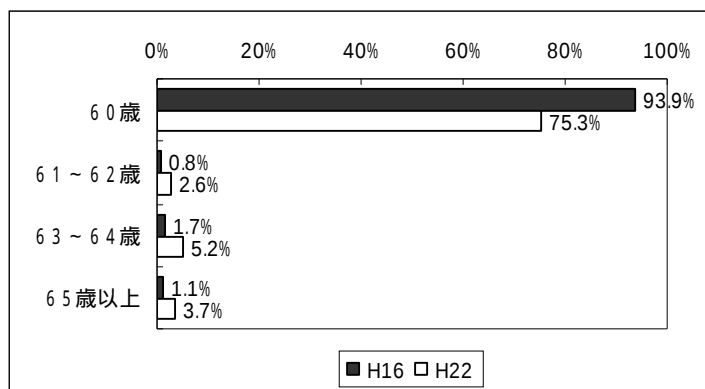
▶自営のためなし ▶定年なし ▶55歳 ▶58歳 ▶59歳

参考として職業別に意識の違いを掲載しておく。

(問18補足図)



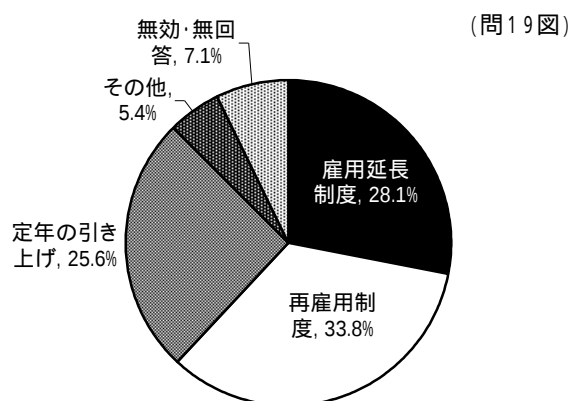
参考：平成16年度との比較



問19. 定年後の雇用延長についてお聞きます。あなたはどのような働き方を希望されますか？

n=2,423

	計
雇用延長制度	681
再雇用制度	819
定年の引き上げ	621
その他	130
無効・無回答	172
合計	2,423



定年後の雇用延長について聞いた。
「再雇用制度」(33.8%)を希望している回答が多く、以下「雇用延長制」(28.1%)、「定年の引き上げ」(25.6%)の順となっている。

「その他」

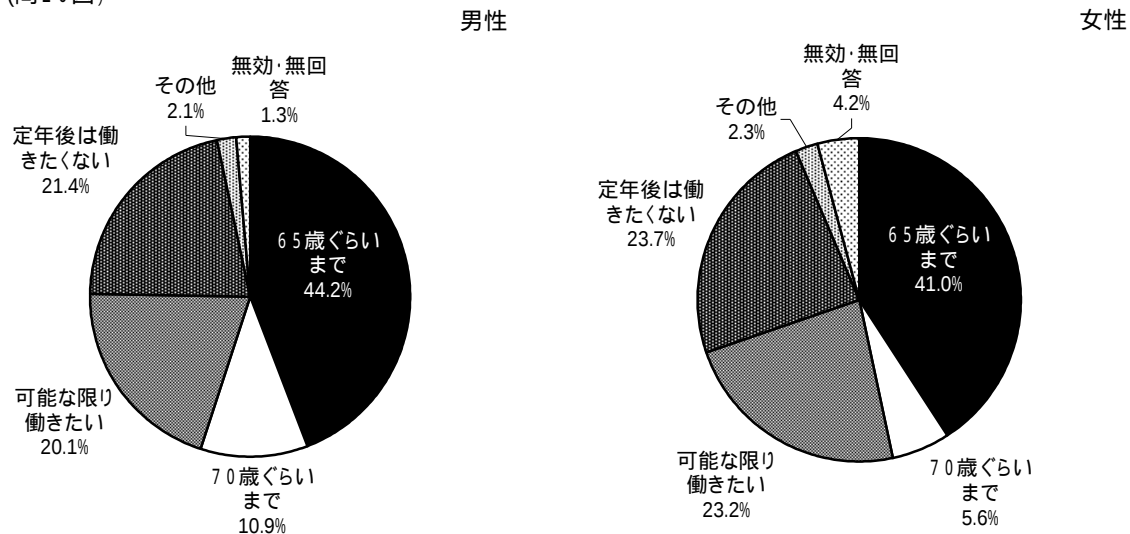
- ▶延長したくない。(最も多く記載あり)
- ▶定年制度はあってよいと思う。
- ▶再雇用は即戦力になっているか再検証を行なわないうちに若い世代の雇用との関係がどのようになっているのかを考えると安易な意見を述べられない。老後は心配であるが、将来を見通した若い世代の育成が心配である。
- ▶延長するのはありがたいが若者の職場を奪うのは困るので定年後はバイト・パートで働きたい。
- ▶個人が働きたいと希望し、かつ会社側も健康の面で問題ないと判断できれば雇用を延長していくとよいと思う。
- ▶年金年齢が引き上げられ働かないと生活できなくなっているため、働ける人はいいいが元気でなければ働けない。
- ▶雇用延長ではなく社会保障を充実し、若者の働く場所を確保する。
- ▶定年延長については本人の選択にする。
- ▶雇用延長反対。失政を国民のツケにすべきでない。
- ▶雇用延長ではなく社会保障を充実し、若者の働く場所を確保する。
- ▶再雇用なしで新入社員を入れる。
- ▶退職条件がわからないので決められない。色々な選択肢を希望。
- ▶体力的に65歳まで働けない職種もある。
- ▶60歳から働かないでも生活できるようにしてほしい、等々

問20. 定年後の就労について、あなたの希望をお聞きます。いつ頃まで働きたいですか？

n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
65歳ぐらいまで	683	342	13	1,038	42.8%
70歳ぐらいまで	168	47	5	220	9.1%
可能な限り働きたい	311	194	6	511	21.1%
定年後は働きたくない	331	198	3	532	22.0%
その他	33	19	0	52	2.1%
無効・無回答	20	35	15	70	2.9%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

(問20図)



定年後いつ頃まで働きたいか聞いた。

就労を希望する方では回答の多いものより、「65歳ぐらいまで」(42.8%)、「可能な限り働きたい」(21.1%)、「70歳ぐらいまで」(9.1%)の順となった。半面、「定年後は働きたくない」(22.0%)との回答もあった。

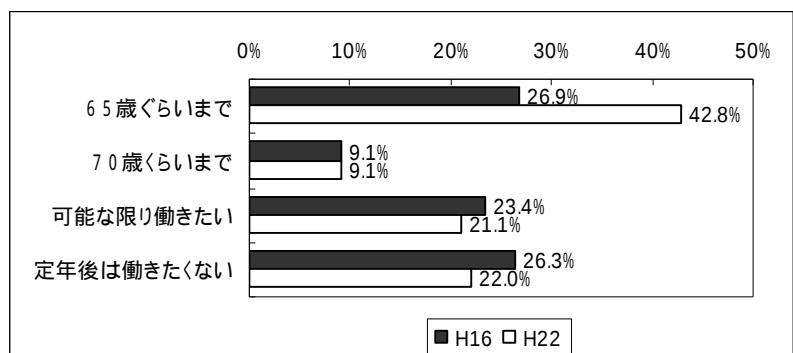
男女別では男性が「65歳ぐらいまで」、「70歳ぐらいまで」と答えた方の比率は男性が若干高いが「可能な限り働きたい」、「定年後は働きたくない」は女性の比率が高い結果となった。

「その他」

▶時間と健康を考えて自分なりの働き方から年齢は区切る事できない ▶子供が大学を卒業するまでくらい ▶62歳 ▶63歳 ▶年金を支給されるまで、等々

参考: 平成16年度との比較

65歳ぐらいまでは働きたいと考えている人が大幅に増えていることがわかる。



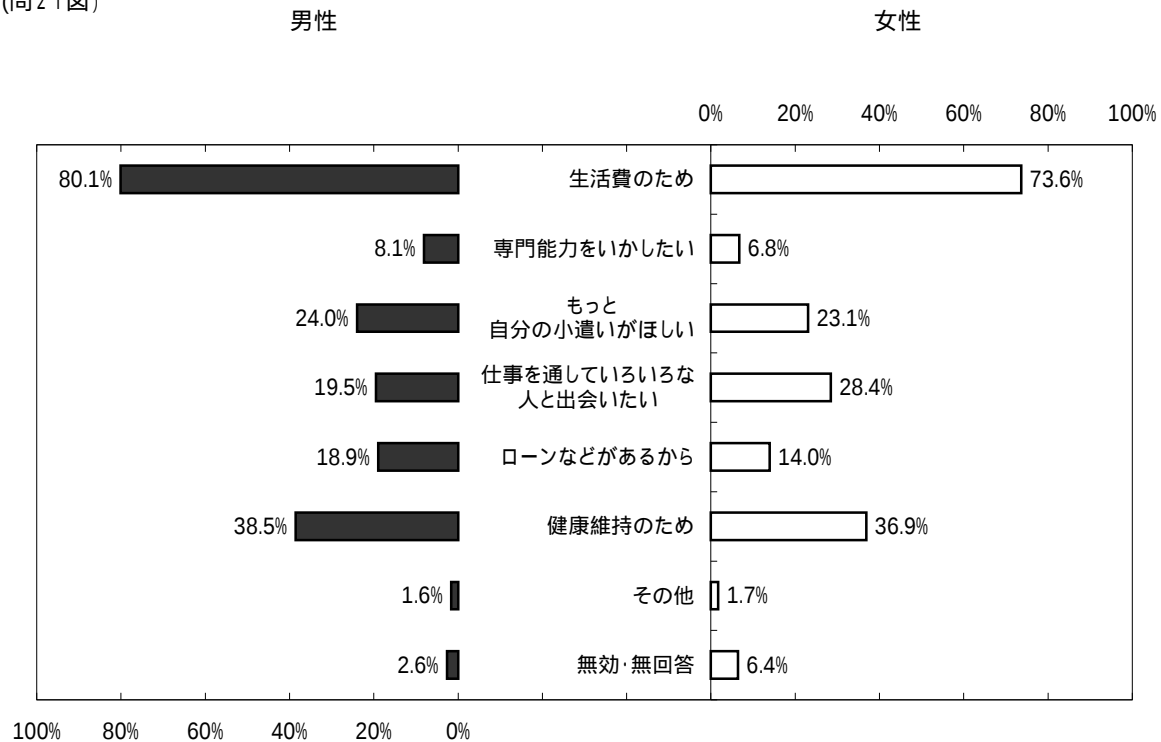
問21. 以下問25までは問20で1)2)3)5)と答えられた方にお聞きします。

定年後の就労を希望される理由は何ですか？(複数回答)

n=1,891

	男性	女性	無効・無回答	計	%
生活費のため	973	469	20	1,462	77.3%
専門能力をいかしたい	98	43	1	142	7.5%
もっと自分の小遣いがほしい	291	147	6	444	23.5%
仕事を通していろいろな人と出会いたい	237	181	3	421	22.3%
ローンなどがあるから	230	89	5	324	17.1%
健康維持のため	468	235	7	710	37.5%
その他	20	11	1	32	1.7%
無効・無回答	32	41	14	87	4.6%
合計	2,349	1,216	57	3,622	191.5%

(問21図)



前項、質問20で1)2)3)5)の回答者に対し、就労を希望する理由を聞いた。

「生活費のため」(77.3%)が大半を占め、以下「健康維持のため」(37.5%)、「もっと自分の小遣いがほしい」(23.5%)、「仕事を通していろいろな人と出会いたい」(22.3%)、「ローンなどがあるから」(17.1%)、専門能力を活かしたい(7.5%)と続く。

男女別では各項目大差はないが、「仕事を通していろいろな人と出会いたい」のみ男性19.5%に対して女性28.4%と1割近い開きがある。

「その他」

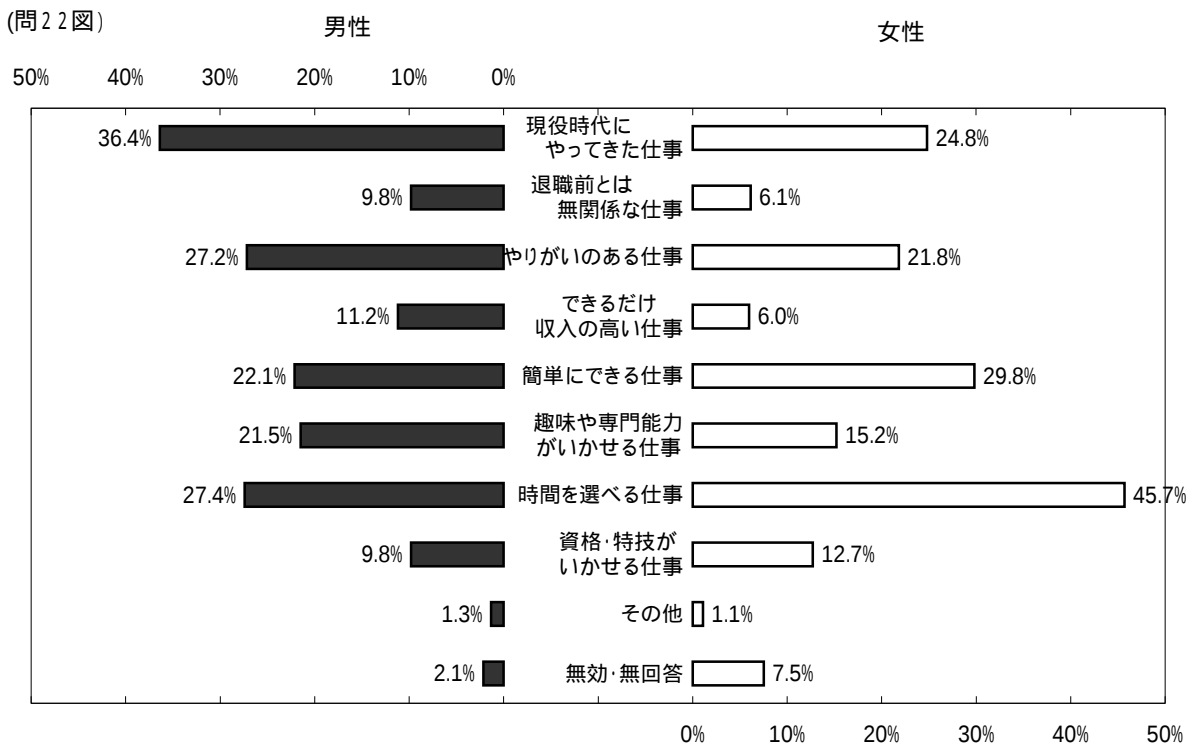
▶年金をすぐにももらえないので ▶生きているうちは仕事をするものだと思う ▶仕事で収入が得られるに越したことはない ▶全く別の世界で別の仕事をしてみたい ▶定年後も子供がまだ学生なので ▶仕事を通じて知識を広げたい、等々

問22. 定年後、あなたが仕事を選ぶとき重視する事を選んでください(複数回答)

n=1,891

	男性	女性	無効・無回答	計	%
現役時代にやってきた仕事	442	158	5	605	32.0%
退職前とは無関係な仕事	119	39	0	158	8.4%
やりがいのある仕事	330	139	6	475	25.1%
できるだけ収入の高い仕事	136	38	1	175	9.3%
簡単にできる仕事	269	190	10	469	24.8%
趣味や専門能力がいかせる仕事	261	97	5	363	19.2%
時間を選べる仕事	333	291	3	627	33.2%
資格・特技がいかせる仕事	119	81	1	201	10.6%
その他	16	7	0	23	1.2%
無効・無回答	26	48	15	89	4.7%
合計	2,051	1,088	46	3,185	168.4%

(問22図)



定年後の仕事選びについては「時間を選べる仕事」が33.2%、他「現役時代にやってきた仕事」(32.0%)、「やりがいのある仕事」(25.1%)、「簡単にできる仕事」(24.8%)、趣味や専門能力がいかせる仕事」(19.2%)、「資格・特技がいかせる仕事」(10.6%)などの回答があり、比較的に現役時代よりストレスの少ない仕事を選ぶ傾向が見られる。

男女別で見ると、男性では「現役時代にやってきた仕事」(36.4%)、「時間を選べる仕事」(27.4%)、「やりがいのある仕事」(27.2%)が上位を占め、女性では「時間を選べる仕事」が(45.7%)、「簡単にできる仕事」(29.8%)、「現役時代にやってきた仕事」(24.8%)が上位を占めており、男女間で異なる結果が出た。

「その他」

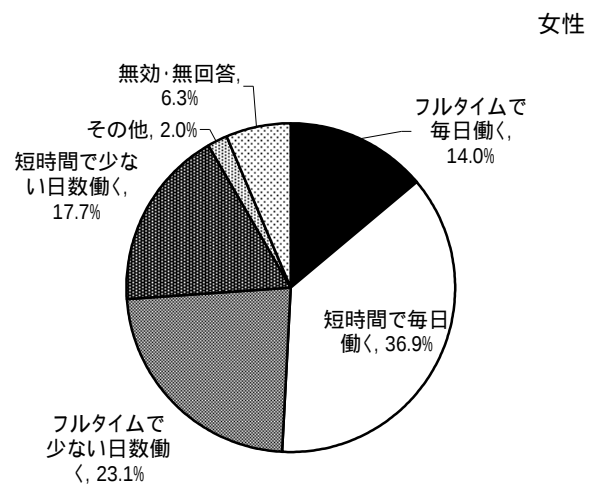
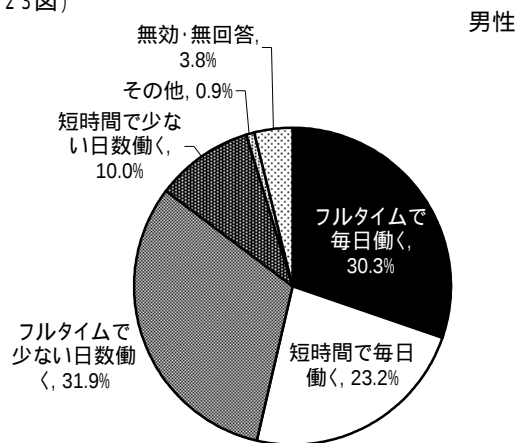
▶仕事が見つかればよい。選んでいられない ▶ストレスなくできる仕事 ▶人間関係 ▶過重な責任を負わなくていい仕事 ▶選択できない、等々

問23. 定年後、雇用されて働く場合に労働時間はどれくらいを希望されますか？

n=1,891

	男性	女性	無効・無回答	計	%
フルタイムで毎日働く	368	89	7	464	24.5%
短時間で毎日働く	282	235	12	529	28.0%
フルタイムで少ない日数働く	387	147	0	534	28.2%
短時間で少ない日数働く	121	113	5	239	12.6%
その他	11	13	0	24	1.3%
無効・無回答	46	40	15	101	5.3%
合計	1,215	637	39	1,891	100.0%

(問23図)



労働時間については男女間で捉え方が大きく異なる。

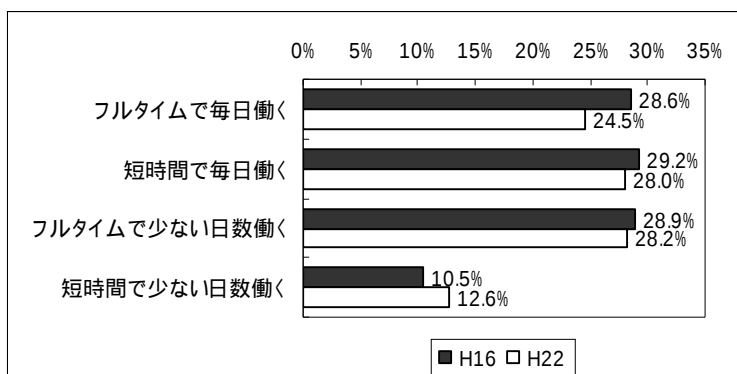
男性では「フルタイムで少ない日数働く」(31.9%)、次いで「フルタイムで毎日働く」(30.3%)、「短時間で毎日働く」(23.2%)、「短時間で少ない日数働く」(10.0%)と続きフルタイムで働くことを希望する傾向がある。

女性では「短時間で毎日働く」(36.9%)、「フルタイムで少ない日数働く」(23.1%)、「短時間で少ない日数働く」(17.7%)、「フルタイムで毎日働く」(14.0%)の順となり、短時間労働を希望する傾向がある。

「その他」

▶体調に合わせて働く ▶働く場があれば選ばない ▶時間や日数は自分で決めたい ▶フルタイムで月、三分の一くらいの日数働く、等々

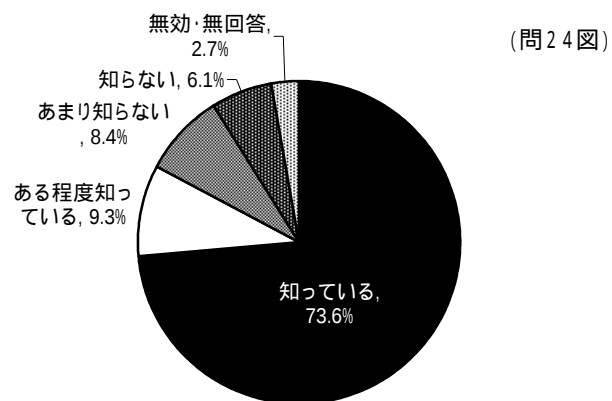
参考: 平成16年度との比較



平成16年の調査では全体では「短時間で毎日」が最多であったが、今回の調査では「フルタイムで少ない日数」に入れ替わっている。

問24. シルバー人材センターを知っていますか？

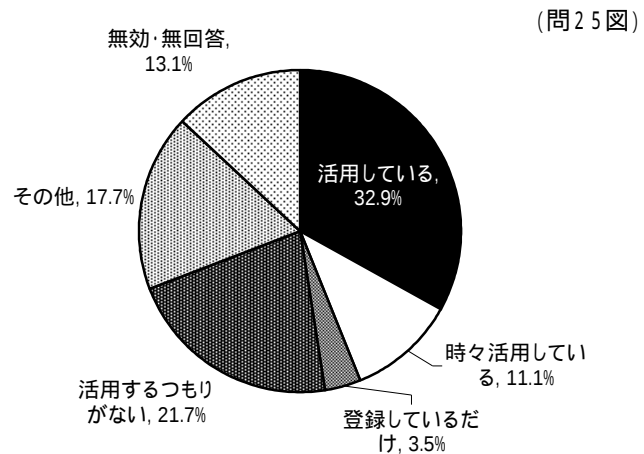
n=1,891	
	計
知っている	1,391
ある程度知っている	175
あまり知らない	158
知らない	116
無効・無回答	51
合計	1,891



問25. シルバー人材センターを活用していますか？

n=434	
	計
活用している	143
時々活用している	48
登録しているだけ	15
活用するつもりがない	94
その他	77
無効・無回答	57
合計	434

60歳以上の仕事をしたい方のみ



シルバー人材センターの認知度について聞いた。

「知っている」(73.6%)、「ある程度知っている」(9.3%)を加えれば全体の8割強の人が認知している。

活用度については、「活用している」(32.9%)、「時々活用している」(11.1%)を加えて44.0%と約半数の方が活用していると回答している。反面、「登録しているだけ」(3.5%)、「活用するつもりがない」(21.7%)と合わせ25.2%の方がいた。

「その他」

▶現在は活用していないが、今後活用するかもしれない ▶まだ必要性を感じない ▶問い合わせしてみたい ▶必要があれば活用する ▶定年後活用する、等々

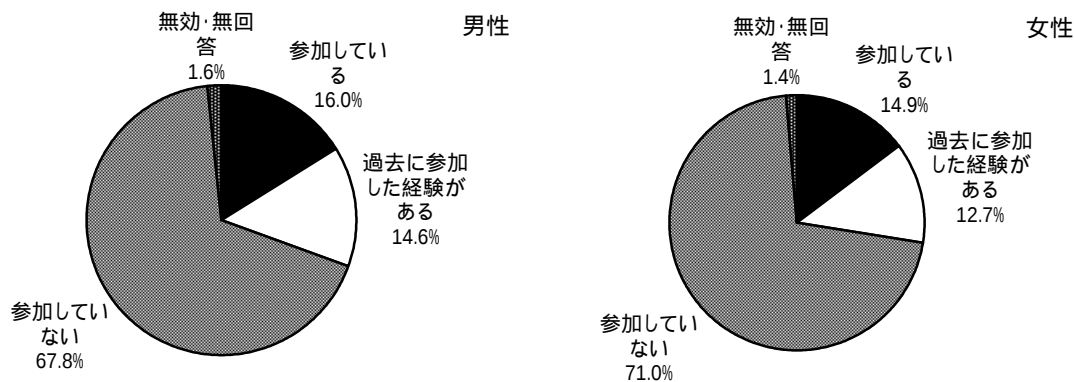
【あなたの趣味やボランティア活動等について質問します】

問26. あなたはNPO・ボランティア・社会貢献活動に参加していますか？

n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
参加している	248	124	1	373	15.4%
過去に参加した経験がある	225	106	3	334	13.8%
参加していない	1,048	593	24	1,665	68.7%
無効・無回答	25	12	14	51	2.1%
合計	1,546	835	42	2,423	100.0%

(問26図)



NPO・ボランティア・社会貢献活動参加について聞いた。

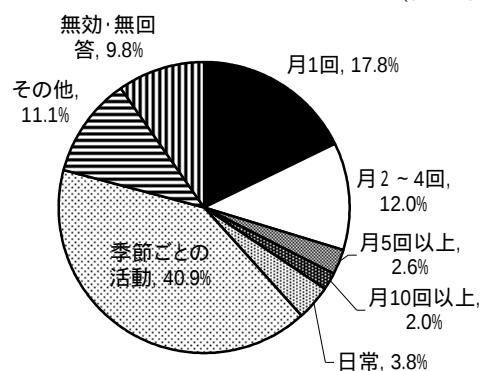
「参加していない」が(68.7%)と比率が高く、「参加している」(15.4%)、「過去に参加したことがある」(13.8%)を足しても29.2%と社会貢献に対する認識の低さが現れている。社会貢献に対する認識は、男女間の比率では若干だが女性の比率が低いことがわかる。

問27. 以下問29までは、問26で「1)参加している」「2)過去に参加した経験がある」と答えられた方にお聞きします。あなたは、どの程度の頻度で活動を行なっていますか？

n=758

(問27図)

	計
月1回	135
月2～4回	91
月5回以上	20
月10回以上	15
日常	29
季節ごとの活動	310
その他	84
無効・無回答	74
合計	758



前項、質問26で1)2)の回答者に聞いた。

「季節ごとの活動」(40.9%)が最も多く、以下「月1回」(17.8%)、「月2～4回」(2.6%)と続く。

「その他」

▶年に数回(最も多数の記載あり) ▶回数は少ないが参加できる時にしている ▶必要に応じて連絡があった場合 ▶イベントが開催されるとき、等々

問28. あなたがNPO・ボランティア・社会貢献活動に参加しているのはなぜですか？(複数回答)

	計
自分のためになるから	242
人のためになるから	230
社会貢献できるから	399
感謝されるから	45
友人・知人などの仲間が増えるから	223
活動内容が良く楽しいから	88
活動にやりがいがあるから	171
余暇を有効に活用できるから	59
その他	26
無効・無回答	71
合計	1,554

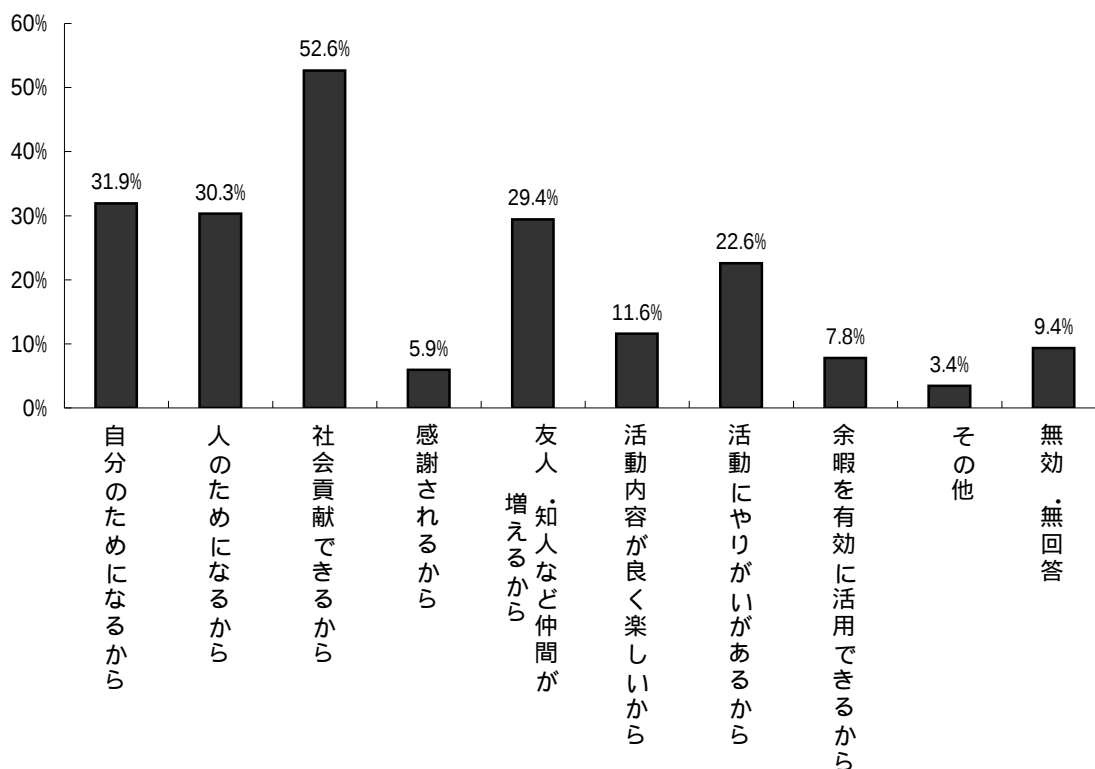
ボランティア活動及び社会貢献活動に参加している理由を聞いた。
本項では、無償・社会貢献的な理由でボランティア活動に参加するグループと自分のため、あるいはボランティア活動等を楽しんで行うグループ、レクリエーション感覚で捉えるグループの3者に大別して分析していく。

無償・社会貢献的な理由でボランティア活動に参加するグループでは、「社会貢献できるから」(52.6%)、「人のためになるから」(30.3%)、「感謝されるから」(5.9%)であり合計88.8%となった。

自分のため、あるいはボランティア活動等を楽しんで行うグループでは、「自分のためになるから」(31.9%)、「活動にやりがいがあるから」(22.6%)、「活動内容が良く楽しいから」(11.6%)であり合計66.1%となった。

レクリエーション感覚で捉えるグループでは、「友人・知人など仲間が増えるから」(29.4%)「余暇を有効に活用できるから」(7.8%)であり合計37.2%となった。

(問28図)



「その他」

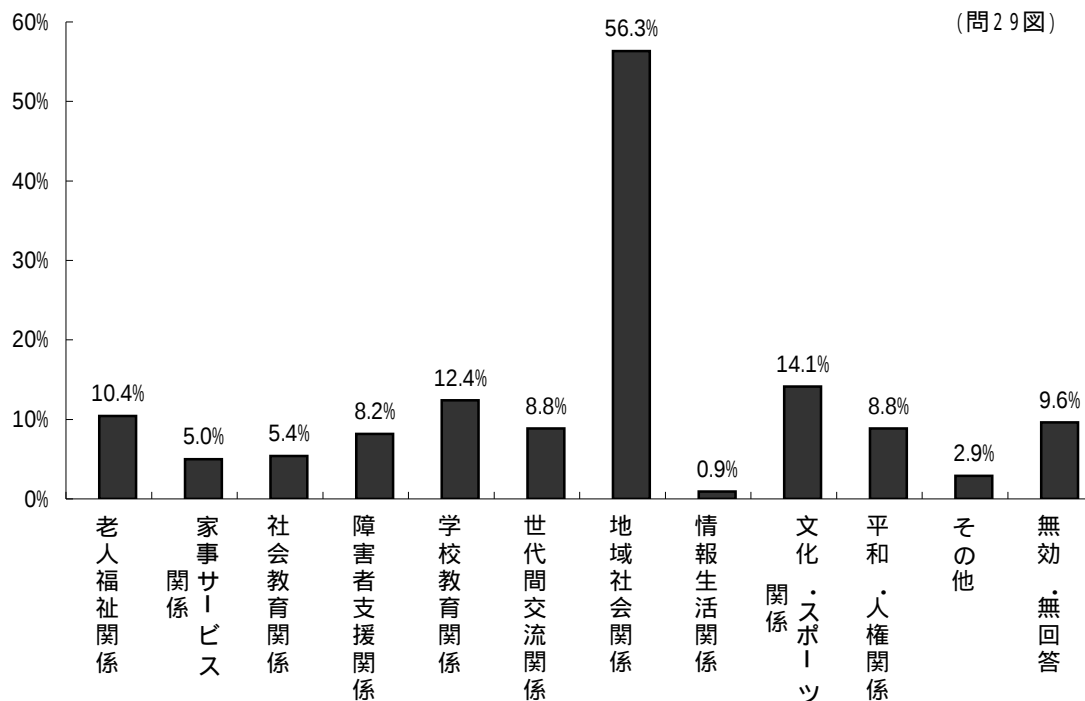
▶義務(年1回) ▶初めにボーイスカウトに入っていたので違和感なくやっていた ▶地域がきれいになる ▶人間の良心で ▶相手が笑顔になるのがうれしいから ▶友人、知人との話題のひとつになるから ▶郷土芸能を後世に残す ▶社会人としての責任において ▶いろいろな人の考え方がわかる、等々

問29. あなたが参加している(してきた)NPO・ボランティア・社会貢献活動の主な活動内容は
何でしょうか？(複数回答)

n=758

	計
老人福祉関係	79
家事サービス関係	38
社会教育関係	41
障害者支援関係	62
学校教育関係	94
世代間交流関係	67
地域社会関係	427
情報生活関係	7
文化・スポーツ関係	107
平和・人権関係	67
その他	22
無効・無回答	73
合計	1,084

現在参加している、あるいは過去に参加してきたボランティア活動の活動内容については、「地域社会関係」(56.3%)が突出している。「地域社会関係」以外では「文化・スポーツ関係」(14.1%)、「学校教育関係」(12.4%)、「老人福祉関係」(10.4%)が10%台となっており、他の項目は10%未満で回答が集まっている。



「その他」

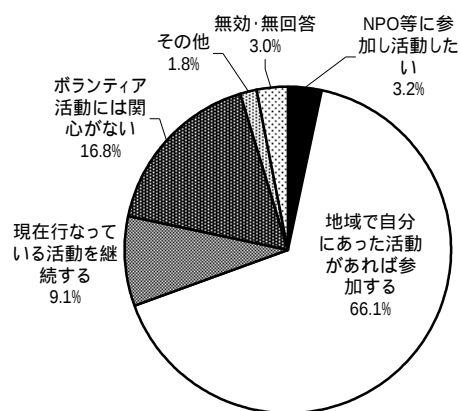
▶ボランティアドッグでの慰問 ▶婦人会活動 ▶公民館活動 ▶社会福祉協議会でボランティアをしている ▶ゴミの再資源化促進 ▶町の良さを知らしめる体験施設の管理、等々

問30. すべての方にお聞きします。今後のボランティア活動への参加についてお答えください。

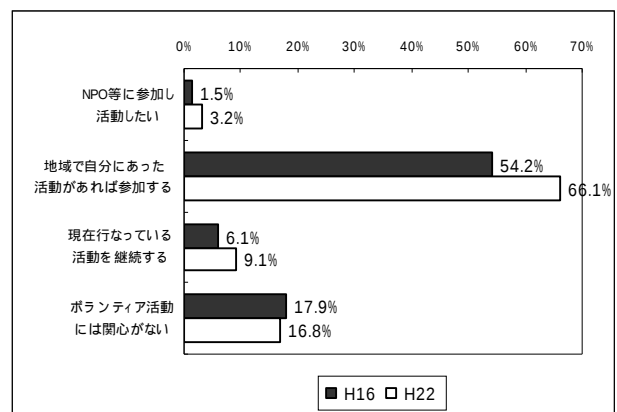
n=2,381

性別	年齢	今後のボランティア活動への参加について						
		NPO等に参加 し活動したい	地域で自分 にあった活動があ れば参加する	現在行なっ ている活動を継 続する	ボランティア活 動には関心が ない	その他	無効・無回答	合計
男性	40～44歳	9	233	23	78	7	4	354
	45～49歳	11	221	22	64	3	5	326
	50～54歳	11	186	26	68	3	4	298
	55～59歳	8	192	29	59	4	6	298
	60～64歳	4	90	26	24	3	5	152
	65～69歳	4	40	15	9	1	6	75
	70～74歳	3	19	3	2	0	4	31
	75歳以上	0	5	5	0	1	0	11
	無効・無回答	0	0	0	0	0	1	1
	男性計	50 (3.2%)	986 (63.8%)	149 (9.6%)	304 (19.7%)	22 (1.4%)	35 (2.3%)	1,546
女性	40～44歳	5	144	8	38	5	6	206
	45～49歳	9	131	10	19	3	5	177
	50～54歳	4	127	13	16	2	4	166
	55～59歳	3	112	11	10	1	11	148
	60～64歳	5	45	9	9	6	4	78
	65～69歳	0	21	10	1	1	1	34
	70～74歳	1	8	2	2	0	4	17
	75歳以上	0	0	4	1	3	1	9
	無効・無回答	0	0	0	0	0	0	0
	女性計	27 (3.2%)	588 (70.4%)	67 (8.0%)	96 (11.5%)	21 (2.5%)	36 (4.3%)	835
計		77 (3.2%)	1,574 (66.1%)	216 (9.1%)	400 (16.8%)	43 (1.8%)	71 (3.0%)	2,381

(問30-1図)



参考：平成16年度との比較



ボランティア活動への理解と関心は着実に高まっており、参加する人も増えているのが分かる。

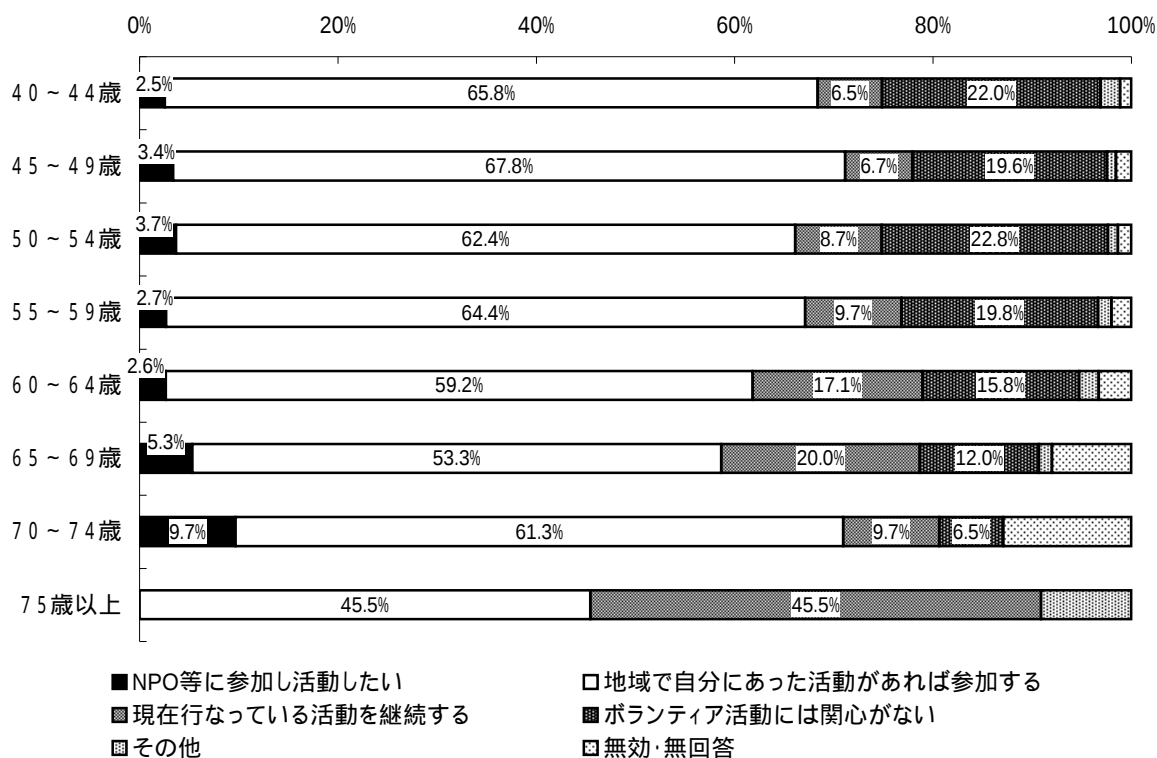
今後、ボランティア活動への参加意思を聞いた。

「地域で自分にあった活動があれば参加する」(66.1%)、「ボランティア活動に関心がない」(16.8%)、「現在行っている活動を継続する」(9.1%)、「NPO法人等に参加し活動したい」(3.2%)と回答があり、全体的にボランティア活動への関心が高い事がわかる。

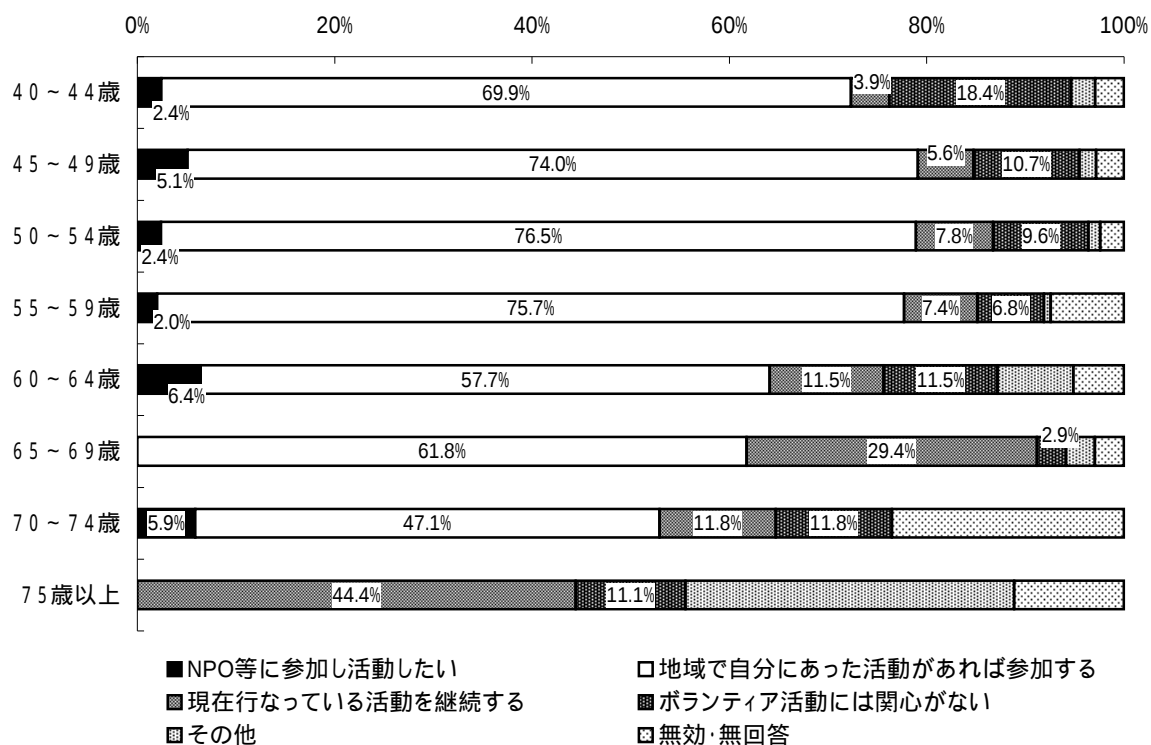
質問29で、現在参加している、あるいは過去に参加したボランティア活動内容について「地域社会関係」(56.3%)と回答があったが、本問も同傾向を示す結果となった。

(問30 - 2図)

男性



女性



男女別に見ると「NPO等に参加し活動したい」、「地域で自分にあった活動があれば参加する」、「現在行なっている活動を継続する」と回答された方は、男性より女性の比率が高いことがわかる。

年齢別では「45歳から49歳」の男性の「地域で自分にあった活動があれば参加する」と回答された比率が高く、女性では「50歳から54歳」の比率が高く年齢層に若干の差があった。

【最後にご質問します】

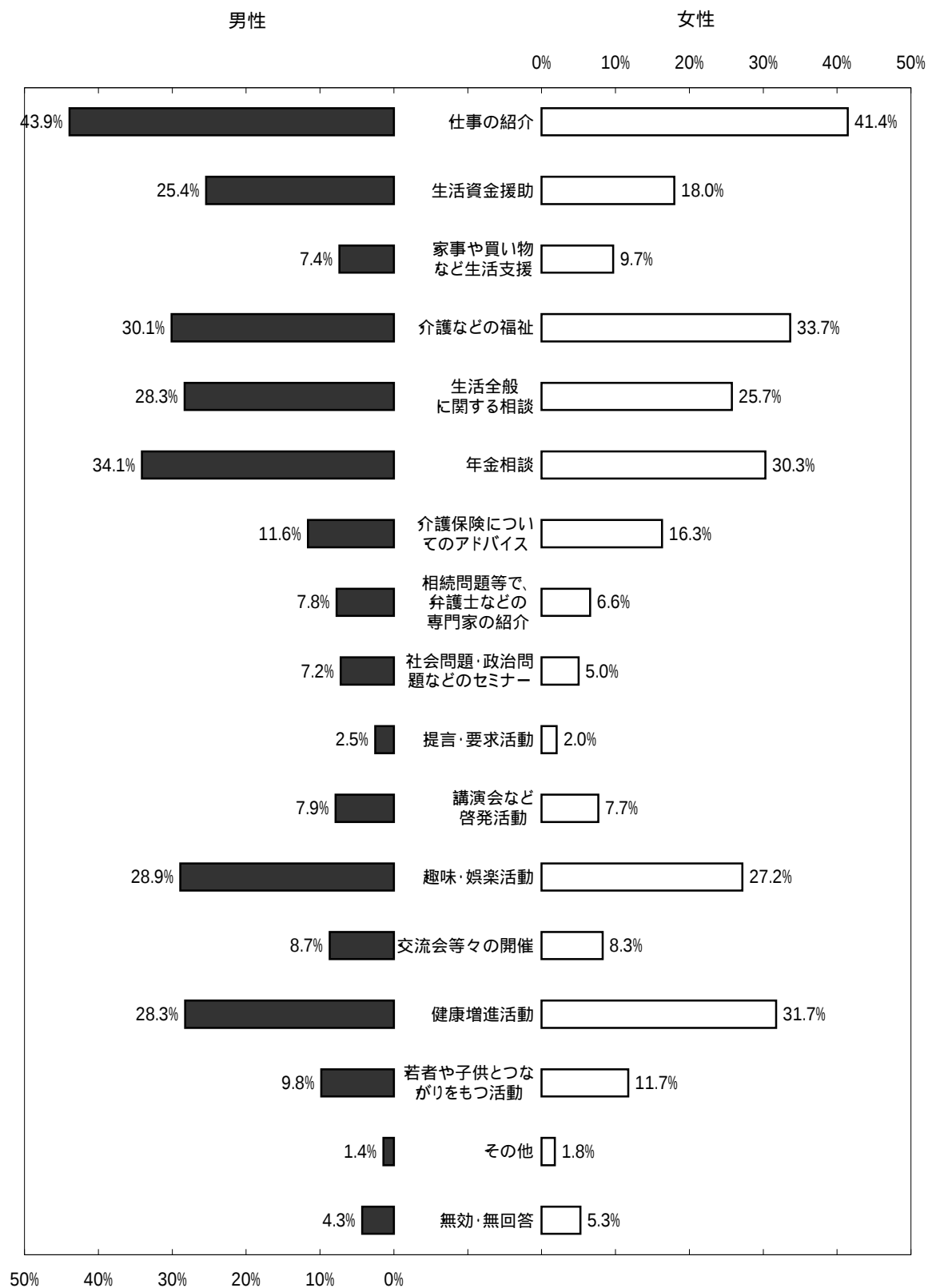
問31. 今後、勤労者のライフサポート(支援策)として、どのような活動を望まれますか？(複数回答)
n=2,423

	男性	女性	無効・無回答	計	%
仕事の紹介	679	346	6	1,031	42.6%
生活資金援助	393	150	6	549	22.7%
家事や買い物など生活支援	114	81	6	201	8.3%
介護などの福祉	465	281	8	754	31.1%
生活全般に関する相談	438	215	6	659	27.2%
年金相談	527	253	3	783	32.3%
介護保険についてのアドバイス	180	136	2	318	13.1%
相続問題等で、弁護士などの専門家の紹介	120	55	0	175	7.2%
社会問題・政治問題などのセミナー	111	42	0	153	6.3%
提言・要求活動	39	17	1	57	2.4%
講演会など啓発活動	122	64	1	187	7.7%
趣味・娯楽活動	447	227	4	678	28.0%
交流会等々の開催	134	69	2	205	8.5%
健康増進活動	437	265	1	703	29.0%
若者や子供とつながりをもつ活動	152	98	6	256	10.6%
その他	22	15	0	37	1.5%
無効・無回答	66	44	15	125	5.2%
合計	4,446	2,358	67	6,871	283.6%

今後要望する支援策としては、「仕事の紹介」(42.6%)、「年金相談」(32.3%)、「介護などの福祉」(31.1%)、「生活全般に関する相談」(27.2%)など生活に直結した項目に回答比率が高いことがわかる。また、「健康増進活動」(29.0%)「趣味・娯楽活動」(28.0%)にも関心の高さが伺える。

「その他」
▶コーディネイト業務 ▶特になし、等々

(問31 - 1図)



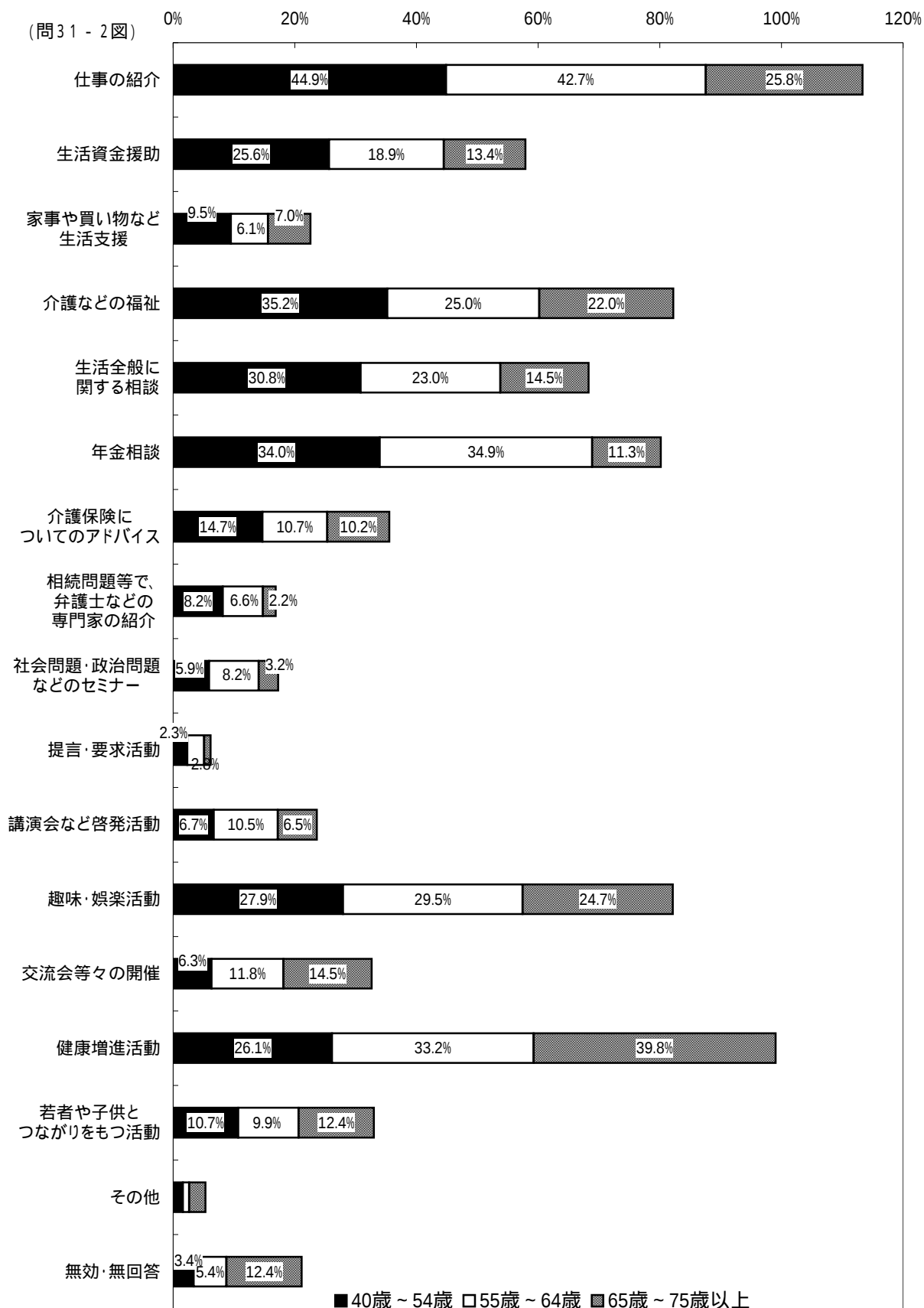
男女別で見ると、男性では「仕事の相談」、「年金相談」、「趣味・娯楽活動」、「生活全般に関する相談」に比率が高いが、女性では「介護などの福祉」、「健康増進活動」、「介護保険についてのアドバイス」、「家事や買い物などの生活支援」が男性より比率が高かった。

他の項目に関しては、ほぼ比率的に大きな差はなかった。

n=2,423

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無効・無回答	計
仕事の紹介	250	242	199	201	91	29	14	5	0	1,031
生活資金援助	149	131	115	95	34	15	7	3	0	549
家事や買い物など 生活支援	57	45	44	26	16	8	3	2	0	201
介護などの福祉	190	188	164	122	49	25	11	5	0	754
生活全般に関する 相談	167	167	141	113	44	19	6	2	0	659
年金相談	180	175	168	178	61	14	4	3	0	783
介護保険についての アドバイス	82	78	66	53	20	16	3	0	0	318
相続問題等で、弁 護士などの専門家 の紹介	45	45	36	31	14	2	2	0	0	175
社会問題・政治問 題などのセミナー	37	25	29	39	17	1	5	0	0	153
提言・要求活動	17	5	14	14	5	0	2	0	0	57
講演会など啓発活 動	34	35	34	49	23	6	5	1	0	187
趣味・娯楽活動	144	168	118	127	75	28	13	5	0	678
交流会等々の開催	40	31	26	48	33	12	11	4	0	205
健康増進活動	134	133	135	147	80	47	21	6	0	703
若者や子供とつな がりをもつ活動	77	44	44	43	25	11	9	3	0	256
その他	9	6	10	4	3	3	1	1	0	37
無効・無回答	27	11	14	23	14	9	10	4	13	125
合計	1,639	1,529	1,357	1,313	604	245	127	44	13	6,871

年齢別では、「仕事の紹介」、「年金相談」、「介護などの福祉」、「生活全般に関する相談」など日常生活支援に関する項目においては、若い年齢層の回答比率が高いことがわかる。
「健康増進活動」などは定年後の年齢層に比率が高く、定年前の年齢層は「年金相談」、「趣味・娯楽活動」に比率が高い。



年齢別の分類は「働き盛りの年齢層40歳～54歳」、「定年前の年齢層55歳～64歳」、「定年後の年齢層65歳～75歳」と3段階に分類して集計を行った。

【自由意見欄】

40歳代 男性	▶男女年齢不問といいながら、実際は違っている。中年男性の働く場は、土方や旗振りの仕事しかない。 ハローワークの職員の対応もひとつとである。自分たちは恵まれた身分で無職の人間を見下しているように感じてしまう。こちらがキチンと手順をふんで伝えても、たらいまわしや引き伸ばしにして、結局あとは何もなかったようにされる。こういう手段は絶対にやらないでもらいたい。 ▶このような意識調査はよくあるが、何かに活かされているのか？アンケートしているだけなら経費の無駄でないか？アンケート結果を活かせるような活動をしてほしい。 ▶スポーツを通して子供たちにスポーツのすばらしさを伝える仕事がしたいと思っています。そのために地域での活動ができる団体・場がもっと充実してほしいです。 ▶アンケートに回答することによって普段漠然と考えていた今後の生活に関して改めて考察を巡らす契機を与えてもらいました。ありがとうございます。 ▶人生で余生の割合は10%程度と考える。人生50年であった昔の引退年齢は45歳であったと聞く。全人口に占める就労人口の割合を考えるとこのようになったのだと考えられる。現在までの少子高齢化の進行については近年では、定年の引き上げ（55歳→60歳）と団塊の世代によってしのいできたと考えられるが団塊の世代が定年を迎えている現在、全人口に占める就労人口の割合について見直す必要があると考える。 ▶経済的に余裕のない者が就職に必須な資格や教養が身につけられるような職業訓練をできれば平日の夜間や土日祝にしていだけたら助かります。 ▶あと12年余りで定年退職となりますが、定年後、年金いただくまでの収入やまた社会保障制度また自分の生活がどうなるのか？等想像が付きません。せめて一般人が退職後の生活を現実的に想像できる世の中・政治をお願いします。 ▶今の日本の政治・経済を見ていると自分の定年後のことより日本国のほうが心配だ。 ▶身体が元気な生活保護を受けている人が自分たちの年金より多くもらっているのはおかしいと思う。
40歳代 女性	定年後の心配をする方は現在が平和な証拠。契約社員の私にとっては定年後の心配より（定年なんてありません）今現在の日々のことが一番気にかかることです。
50歳代 男性	▶次世代の若者にバトンタッチし社会経済を活性化し、暮らしやすいいい生活をしてほしい。自分たちが出した負の財産は、できるだけ次の者に負担させたくない。 ▶長く仕事がしたいです。ゆとりある生活がしたい。 ▶定年を引き上げるべきと思います。団塊世代の方々のスキルは高い。

50歳代 男性	▶1. 介護保険制度の中身や取り組み（ケアマネジャーの取り組み）を一般に広くPR活動が不足しているのでは？また地域包括支援センターの活動についても一般市民には全くといっていいほど理解はされていないと思う。 2. 認知症の方へのサポートが地域の方々の協力も必要（支援）ではないか？ 3. 市民一人一人が身近のできる部分を（分野は介護、福祉に限らず）協力的に一步進める考えを持ちたいと思う。 ▶「趣味・娯楽活動の推進と充実」老後は多種多様な生き方があります。特に定年後は自由に好きなことをしたいと考えている方がほとんどではないでしょうか？仕事をしていればお金を使わなくて済むが自由な時間が多くなると趣味や娯楽にお金を使うことが多くなると聞きました。特にボランティア活動や多趣味の私にとっては「資金難」が予想されます。そういう意味では年金の充実が必要不可欠のことだと思います。 ▶雇用の場を拡大しないで、年金の財源不足を理由に定年延長ははたして正しい道なのか。若者に正規採用の枠を広げて希望（経済的、人生的）を得られるようにしないと社会の活力は得られないのではないだろうか。 ▶若者に正規採用の道を広げることで結婚や出産の条件も整う。活力ある社会の実現には若い層の存在が重要であると思う。 ▶雇用延長制度等の見直しが必要。（若者の雇用に影響がでていると思う）年金支給年齢繰り下げにも問題があり、再検討要す。 ▶定年になったら年金等で楽しく暮らしたい。 ▶このアンケートは何の役に立っているのか？インターネットで行なえばよいのでは。 ▶中高年対策のため資格取得のための職業訓練や講習・セミナーをやっても仕事への導きへはほど遠いと思います。今の現場は能力（成果主義）が多く、完成していくらである。資格をたくさんもっていてもペーパードライバーである。資格を活かし成果を望む。 ▶定年延長になっても体力的な不安がある。 ▶勤労者のライフサポートとして今後50年以内に発生するのではないかとされている東南海地震対策として各地域の自主防災活動が活発に機能していけられるようなセミナーがあれば啓発につながる。 ▶「是々非々」世の中を作ってください。「正しく楽しく仲良く」人生を送れる日本を建国して下さい。 ▶格差のない社会の実現をお願いします。
---------	--

50歳代 女性	▶少子高齢化社会になり老後の不安をすごく感じている人が多いと思う。病気になった時、経済的不安をととても感じるのでどうすれば不安がなくなるかと考えている。 ▶本音は悠々自適な生活がしたいが、人生が長いので経済的に困らないよう退職しても何らかの収入がほしい。やりたい趣味もあるが収入に結びつかないので…。 ▶平均寿命の延びた現在、60歳70歳はまだまだ老後とは言えず、元気なうちは誰しも働いて社会と関わりあって生きていきたいと感じていることだと思います。 少なくとも職に就いて孤独になることなく賃金も得られればいいことはありません。そんな社会になるように労福協に課せられた責任は大きいと思います。共にがんばって弱者がなくことのない社会にしていきたいと思います。 ▶集える場所づくり、無料で利用できる場所があれば良い。 ▶子供を社会で育てるのも大切ですが、その子供を支える20～50歳代の就労が安定しません。まずは働き盛りの仕事の確保を最優先に考え、ハローワークでの資格の取得などに力を入れてほしいと思います。ヘルパー資格、パソコン、介護保険事務など無料もしくは低料金で受講できるようにして下さい。現在、就労し社会に貢献できている人でも老後は今の社会保障では厳しいものとなります。生活保護世帯の方がゆとりのある現状では社会が成り立ちません。もう一度、制度の見直しが必要なときです。 ▶定年制の延長や中高年の雇用をうたっていたと思うが、実態としてなされているように思えない。働きたい人はいつでも働けるような社会になってもらいたい。
60歳代 男性	▶労働力世代（18歳～60歳）が失業する社会の中で中高年がその職場を奪うのは感心しない。1次産業での政策職場（公有林とか公有農地）を作り、そこに中高年を導き、1次産業が若者の職場になるよう基盤づくりをしてほしい。 ▶若い頃は、人生は希望と辛抱だと頑張っていたが、今は、人生は我慢と現状維持だと耐えることを考える。 ▶今の世の中は不景気なときであります、これからは若い人、シルバーの皆さんに仕事がたくさん出来るようにお願いします。また勝浦町内の役所の仕事はシルバー人材センターが取っていくようにしてほしいと思う。 ▶将来の少子高齢化社会の到来は理解できるが現在、多数の非正規労働者が蔓延しており、雇用不安及び所得格差の解消をすることが急務であると思います。 ▶生きてきて良かったと思うことができる高齢期生活になるように様々な努力や施策に力を注いでほしい。期待しています。 ▶年金問題をどうかしてほしい。

60歳代 女性	▶仕事がしたいのに就職できない。条件に合わない内容が多く間口が大変せまい。 ▶中高年でも能力はある。年齢だけで断らないで欲しい。事業所の考え方も変えて欲しい。 ▶仕事に関わりたい。 ▶来年は退職になりますが、元気があるのでまだどこかで働きたいと思っています。 ▶定年してから働いていますが仕事を辞めたら人のためボランティア活動に参加したい。習い事もたくさんしたい。
70歳代 男性	▶我々高齢者にすれば人に迷惑をかけないことも小さなボランティアにもなり、人との話しをするのも交流といえるでしょう。 ▶男の80歳は平均的な寿命です。残余は出来るだけ静かに暮らしたい。誰にも迷惑にならぬように気をつけたい。 ▶介護に関するオンブズマン制度知りたい。
70歳代 女性	▶すべての年金者が趣味と専門能力を活かせる毎日であればいいと思う。年金の先細りでなく掛けている人は倍々あってもいいです。ボランティア活動にも資金がいります。年を重ねると医療代もかさみます。 ▶後期高齢者として思うことは私の年代では教育は教育でなく誤った教育を受けています。後悔することも多々ですが生命の続く限り学ぶという気持ちは充分にあります。また私たちの大先輩のすばらしき事柄は伝えていきたいと思っています。

■ 標本誤差について

無作為抽出法を取った場合の標本誤差を以下に示します。誤差3%とは、回答結果が50%の場合 $50 \pm 3\%$ 、すなわち 47%～53%の間に真の値があるということになります(区間推定)。今回調査の問 20「6

標本誤差(信頼水準:95%)

当該比率p 標本数n	10%	20%	30%	40%	50%
100	± 5.9	± 7.8	± 9.0	± 9.6	± 9.8
200	± 4.2	± 5.5	± 6.4	± 6.8	± 6.9
300	± 3.4	± 4.5	± 5.2	± 5.5	± 5.7
400	± 2.9	± 3.9	± 4.5	± 4.8	± 4.9
500	± 2.6	± 3.5	± 4.0	± 4.3	± 4.4
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
2423	± 1.2	± 1.6	± 1.8	± 2.0	± 2.0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

単位:%

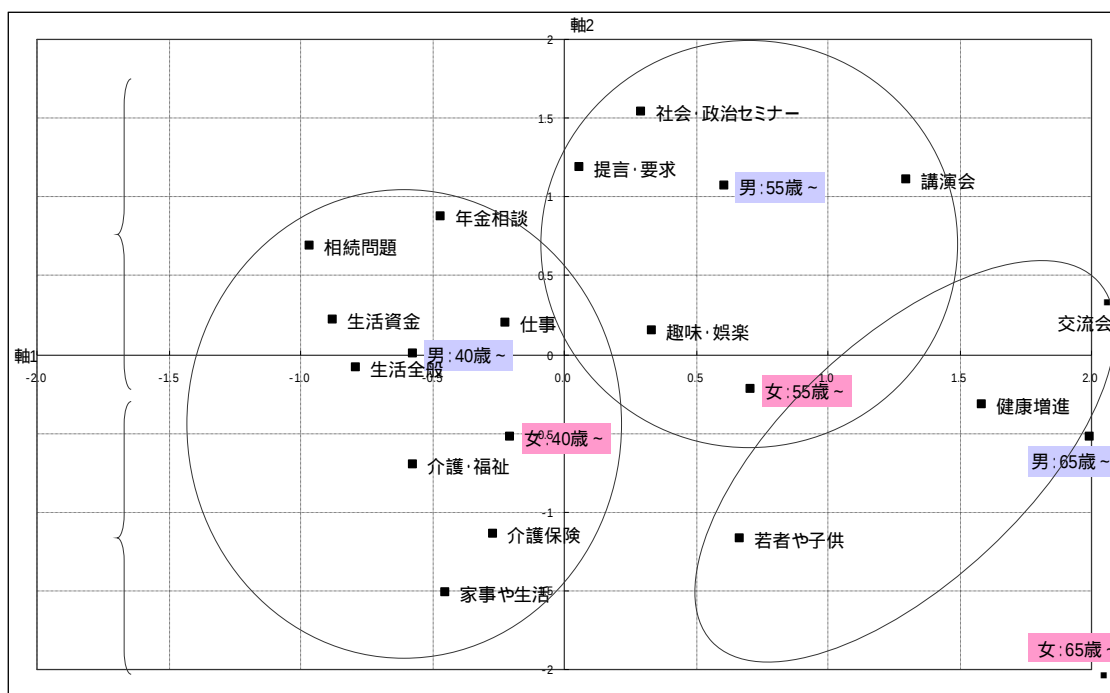
5 歳ぐらゐまで」の回答 42.8% (n=2,423) を例に取ると、母比率は $42.8 \pm 1.97\%$ と推定されます(注 1)。

左表を利用して、アンケート調査を行う際の必要な標本数を求めることもできます。期待する標本誤差 $\pm 3\%$ (注 2)、想定する比率 50% (注 3) と設定した場合の標本数 n は $1067.111 \cdots$ 1067、標本誤差 $\pm 5\%$ 、比率 50% とした場合の標本数は $384.160 \cdots$ 384 となります。

ります。

注 1: 徳島県の人口統計により、無限母集団 (N = 40,000) を想定しています(県内の 40 歳以上人口 478,581 人 徳島県ホームページより)。
注 2: 標本誤差(サンプリング誤差)は通常 3～5% を想定します。注 3: 比率 p は通常 $p \cdot (1-p)$ が最大になる値 0.5 を取ります。

■ 多変量解析の結果



問 31 今後の勤労者サポートに望むこと について、性別・年齢 とのクロス集計をコレスポネンデンス分析(対応分析)にかけた結果を示します(注 1)。軸 1 のプラス方向には「交流会」「健康増進」など 65 歳以上の回答比率の高いもの、マイナス方向には「生活資金」など 40 歳～の回答比率の高いものが配置されています。軸 2 のプラス方向には「生活資金」「年金」など男性の回答比率の高いもの、マイナス方向には「家事」「介護」など女性の回答比率が高いものがそれぞれ配置されています(注 2)。

なおクロス集計表について独立性の検定を行った結果は $\chi^2=245$ 、棄却域=96.23 (有意水準 0.05) となり、性別・年齢 今後の勤労者サポートに望むこと は関連があると言えます。

注 1: コレスポネンデンス分析は数量化 Ⅱ 類の手法を用いて Microsoft Excel2002 により数式計算を行ったものです。市販の解析ソフトによる結果とは異なる場合がありますので、参考程度に留めてください。注 2: 年齢は「40 歳～54 歳」「55 歳～64 歳」「65 歳以上」の 3 段階に括り直し、質問項目については語句を省略して表記しています。

アンケート調査票

中高年の就労生活意識調査

(徳島県受託事業)

《調査のお願い》

少子高齢化の急速な進行によって労働力人口の不足が懸念されており、今後社会経済を活性化するためには中高年齢者の労働力が必要となります。そこで中高年齢者の就労や生活意識の実情を調査することとなりましたのでご理解ご協力をお願いします。

《ご記入にあたって》

- 回答は、平成 22 年 4 月末現在の状況をご記入ください。
- 調査票のご記入は、40 歳以上の方をお願いいたします。
- 回答は、該当する番号、または一番近いと思われる番号に○をつける方法でお答えください。
「その他」を選んだ場合と自由記述回答の設問は、該当欄に具体的にご記入ください。
調査票は平成 22 年 6 月 30 日（水）までにご記入ください。

調査に関するお問い合わせは
社団法人 徳島県労働者福祉協議会
〒770-0942 徳島市昭和町 3 丁目 35-1
Tel 088-625-5644 担当 林・関口まで

【あなた自身のことについてお聞きします】

問 1 . あなたの性別をお答え下さい。

- | | |
|--------|--------|
| 1) 男性 | 2) 女性 |
|--------|--------|

問 2 . あなたの年齢をお答え下さい。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1) 4 0 ~ 4 4 歳 | 2) 4 5 ~ 4 9 歳 |
| 3) 5 0 ~ 5 4 歳 | 4) 5 5 ~ 5 9 歳 |
| 5) 6 0 ~ 6 4 歳 | 6) 6 5 ~ 6 9 歳 |
| 7) 7 0 ~ 7 4 歳 | 8) 7 5 歳以上 |

問 3 . あなたの家族構成をお答え下さい。(一緒に住まいの方の番号を○印で囲んでください)

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1) 一人住まい | 2) 配偶者 |
| 3) 父母 | 4) 子供 |
| 5) 兄弟姉妹 | 6) その他(具体的に) |

問4 . 現在の、あなたの暮らし向きについてお聞きかせください。

- 1) 以前よりゆとりが出てきた 2) ゆとりがない 3) 変わらない

問5．あなたの生活の不安や悩みについてお聞きかせください。

(いくつでも○をお付けください)

- 1)健康問題(本人・家族を含む)
2)家族の問題(介護を含む)
3)子供の教育
4)金銭的問題(生活費等)
5)特になし
6)その他()

問6．生活費はどれくらいを必要とされますか？

- 1) 10万以下 2) 11~15万円 3) 16~20万円
4) 21万~25万円 5) 26~30万円 6) 31万円以上

【仕事についてお聞きます】

問7：現在、お仕事に従事されていますか？

- 1) している 2) していない

問8. 問7で「1) している」と答えられた方にお聞きします。

あなたが現在従事している職種をお聞きます。（どれか1つに○印をお付けください）

- 1) 専門的・技術的職業従事者（機械・電気・土木・情報処理などの技術者、医療・保険・社会福祉などの専門的技術者など）
- 2) 管理的職業従事者（役員、管理職員など）
- 3) 事務従事者（一般、会計、営業、販売、外勤、運輸、事務など）
- 4) 販売従事者（定員、外交員、保険募集人など）
- 5) サービス職業従事者（ホームヘルパー、美容師、調理人、接客など）
- 6) 保安職業従事者（警備、ビル管理等など）
- 7) 農林漁業従事者
- 8) 運輸・通信従事者（運転手、郵便集配員など）
- 9) 生産工程・労務従事者（各種製造業などの現場職員、職人など）
- 10) その他（ ）

問 9 . 問 7 で「 1) している」と答えられた方にお聞きします。

あなたの現在の就業形態をお聞きかせください。

- | | | |
|----------|----------------|-----------|
| 1) 正社員 | 2) 契約社員 | 3) パート社員 |
| 4) 派遣社員 | 5) その他 (具体的に |) |

問 1 0 . 問 7 で「 2) していない」と答えられた方にお聞きします。

していない理由をお聞かせ下さい (どれか 1 つに ○ 印をお付けください)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1) 病気で働けない | 2) 育児や家族の介護等で働けない |
| 3) 求職活動を行ったが仕事が見つからず活動をやめた | 4) 求職活動中 |
| 5) 仕事は探していない | |
| 6) その他 (具体的に |) |

問 1 1 . 問 7 で「 2) していない」と答えられた方にお聞きします。

あなたの求職活動を行なう中で困ったことはありますか？ (主なもの 3 つまで ○ 印をお付けください)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1) 中高年の働く場所が少ない | 2) 求職先の情報が少ない |
| 3) 自分の能力価値がわからない | 4) 公的資格の有無 |
| 5) 年齢制限・性別 | 6) スキルアップを行なう機会の不足 |
| 7) 自己アピール法がわからない | 8) 学歴 |
| 9) 困ったことはない | 1 0) 求職活動はしていない |
| 1 1) その他 (|) |

問 1 2 . 以下すべての方にお聞きします。再就職に向けた各種支援セミナーの開催や公共職業訓練を知っていますか？

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1) 知っているし参加したことがある | 2) 知っているが参加したことがない |
| 3) 知らない | 4) その他 (|
-)

問 1 3 . あなたが身につけたいと考える職業訓練資格は何ですか？

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1) 事務・パソコン関係 | 2) 医療・福祉関係 | 3) 土木・建設関係 |
| 4) 特になし | 5) その他 (|) |

問14．中高年齢者の再就職支援としてどのような支援を求めますか？

（主なもの3つまで○印をお付けください）

- 1) 中高年齢者の就労場所の充実
- 2) 就職相談窓口の充実
- 3) 資格取得のための職業訓練の充実や講習・セミナーの開催等
- 4) スキルアップや職探しのカウンセリングの場を設ける
- 5) 就職活動中の託児や介護の支援の充実
- 6) 生活全般の支援
- 7) 特になし
- 8) その他()

【定年後の過ごし方についてお聞きします】

問15．定年後はどのような過ごし方をお考えですか？（どれか1つに○印をお付け下さい）

- 1) 出来れば元気なうちは働きたい
- 2) 事業を起こしたい
- 3) 悠々自適な生活をしたい
- 4) ボランティアやNPO法人の活動をしたい
- 5) 趣味やスポーツに関する活動をしたい
- 6) その他(具体的に)

問16．定年退職後の暮らしについて、不安をお感じですか？

- 1) ある
- 2) 少しある
- 3) あまりない
- 4) ない

問17．問16で「1)ある・2)少しある」と答えられた方にお聞きします。

どのようなことに不安をお感じですか？（いくつでも○印をお付けください）

- 1) 自分の健康
- 2) 配偶者の健康
- 3) 家族の介護
- 4) 年金など将来の見通し
- 5) 定年後の生活費
- 6) 定年後の仕事の確保
- 7) その他()

問18．あなたの勤務先の定年年齢は何歳ですか？（でしたか？）

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1) 60歳 | 2) 61～62歳 | 3) 63～64歳 |
| 4) 65歳以上 | 5) 分からない | 6) その他() |

問19．定年後の雇用延長についてお聞きします。あなたはどのような働き方を希望されますか？

- 1) 「雇用延長制度」→定年年齢は設定されたままその定年年齢に到達した者を退職させることなく引き続き雇用する
- 2) 「再雇用制度」→定年年齢に到達した者をいったん退職させた後、再び雇用する
- 3) 「定年の引き上げ」→65歳以上
- 4) その他（具体的に)

問20．定年後の就労について、あなたの希望をお聞きします。いつ頃まで働きたいですか？

- 1) 65歳ぐらいまで
- 2) 70歳ぐらいまで
- 3) 可能な限り働きたい
- 4) 定年後は働きたくない ⇨ 問26へお進み下さい
- 5) その他()

問21．以下問25までは問20で1)2)3)5)と答えられた方にお聞きします。
定年後の就労を希望される理由は何ですか？（いくつでも○をお付けください）

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1) 生活費のため | 2) 専門能力をいかしたい |
| 3) もっと自分の小遣いがほしい | 4) 仕事を通していろいろな人と出会いたい |
| 5) ローンなどがあるから | 6) 健康維持のため |
| 7) その他（具体的に) | |

問22. 定年後、あなたが仕事を選ぶとき重視する事を選んでください
(主なもの2つまで○印をお付けください)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1) 現役時代にやってきた仕事 | 2) 退職前とは無関係な仕事 |
| 3) やりがいのある仕事 | 4) できるだけ収入の高い仕事 |
| 5) 簡単にできる仕事 | 6) 趣味や専門能力がいかせる仕事 |
| 7) 時間を選べる仕事 | 8) 資格・特技がいかせる仕事 |
| 9) その他(|) |

問23. 定年後、雇用されて働く場合に労働時間はどれくらいを希望されますか？

- | | |
|------------------|----------------|
| 1) フルタイムで毎日働く | 2) 短時間で毎日働く |
| 3) フルタイムで少ない日数働く | 4) 短時間で少ない日数働く |
| 5) その他(|) |

問24. シルバー人材センターを知っていますか？

- | | |
|------------|--------------|
| 1) 知っている | 2) ある程度知っている |
| 3) あまり知らない | 4) 知らない |

問25. シルバー人材センターを活用していますか？

- | | |
|-------------|---------------|
| 1) 活用している | 2) 時々活用している |
| 3) 登録しているだけ | 4) 活用するつもりがない |
| 5) その他(|) |

【あなたの趣味やボランティア活動等について質問します】

問26. あなたは NPO・ボランティア・社会貢献活動に参加していますか？

- | | | |
|-----------|-----------------|------------|
| 1) 参加している | 2) 過去に参加した経験がある | 3) 参加していない |
|-----------|-----------------|------------|



問30へお進み下さい

問27. 以下問29までは、問26で「1) 参加している」「2) 過去に参加した経験がある」と答えられた方にお聞きします。あなたは、どの程度の頻度で活動を行なっていますか？

- | | | |
|-----------|----------|------------|
| 1) 月1回 | 2) 月2～4回 | 3) 月5回以上 |
| 4) 月10回以上 | 5) 日常 | 6) 季節ごとの活動 |
| 7) その他 (| |) |

問28. あなたがNPO・ボランティア・社会貢献活動に参加しているのはなぜですか？
(主な理由を3つ○印をお付けください)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1) 自分のためになるから | 2) 人のためになるから |
| 3) 社会貢献できるから | 4) 感謝されるから |
| 5) 友人・知人などの仲間が増えるから | 6) 活動内容が良く楽しいから |
| 7) 活動にやりがいがあるから | 8) 余暇を有効に活用できるから |
| 9) その他 (|) |

問29. あなたが参加している(してきた)NPO・ボランティア・社会貢献活動の主な活動内容は何か？(主なもの2つまで○印をお付けください)

- | | |
|--------------|--|
| 1) 老人福祉関係 | (独居老人の慰問、介護支援、生活安全支援、話し相手等) |
| 2) 家事サービス関係 | (ハウスキーパー、炊事、農作業、植木等の手入れ等) |
| 3) 社会教育関係 | (公共施設等での趣味や特技、専門知識、技術を活かした活動等) |
| 4) 障害者支援関係 | (手話通訳、家庭訪問、生活・行動支援等) |
| 5) 学校教育関係 | (体験学習活動、ふれあい活動への協力、子供の健全育成を図る活動等) |
| 6) 世代間交流関係 | (子供会活動・老人クラブ活動等への参加、協力) |
| 7) 地域社会関係 | (自治会活動・街作り・環境の保全、地域安全・災害救済活動、交通安全運動等への参加、協力、活動団体の運営・援助の活動) |
| 8) 情報生活関係 | (IT講習会、パソコン・インターネットサポート活動等) |
| 9) 文化・スポーツ関係 | (文化・芸術またはスポーツの振興を図る活動等) |
| 10) 平和・人権関係 | (人権擁護・平和の推進を図る活動、国際協力の活動、男女共同参画社会の形成の促進を図る活動、募金活動等への参加・協力) |
| 11) その他 | (|

問30 すべての方にお聞きします。 今後のボランティア活動への参加についてお答えください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1) NPO 等に参加し活動したい | 2) 地域で自分にあった活動があれば参加する |
| 3) 現在行なっている活動を継続する | 4) ボランティア活動には関心がない |
| 5) その他 (|) |

【最後にご質問します】

問31 . 今後、勤労者のライフサポート（支援策）として、どのような活動を望まれますか？
（いくつでも○印をお付けください）

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1) 仕事の紹介 | 2) 生活資金援助 |
| 3) 家事や買い物など生活支援 | 4) 介護などの福祉 |
| 5) 生活全般に関する相談 | 6) 年金相談 |
| 7) 介護保険についてのアドバイス | 8) 相続問題等で、弁護士などの専門家の紹介 |
| 9) 社会問題・政治問題などのセミナー | 10) 提言・要求活動 |
| 11) 講演会など啓発活動 | 12) 趣味・娯楽活動 |
| 13) 交流会等々の開催 | 14) 健康増進活動 |
| 15) 若者や子供とつながりをもつ活動 | 16) その他 (|
| |) |

以上で質問事項はすべて終わりです。ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

自由ご意見欄

中高年の就労生活意識調査
アンケート調査報告書

調査・集計



社団法人 徳島県労働者福祉協議会

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

URL <http://tokushima.rofuku.net/>

e-mail tokushima@rofuku.net
